

事業報告書

平成24年度



シンボルマーク

人の動きの中にあふれる生命力を表現しています。

財団法人横浜市総合保健医療財団

指定管理施設

横浜市総合保健医療センター

横浜市神奈川区精神障害者生活支援センター

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター

利用状況

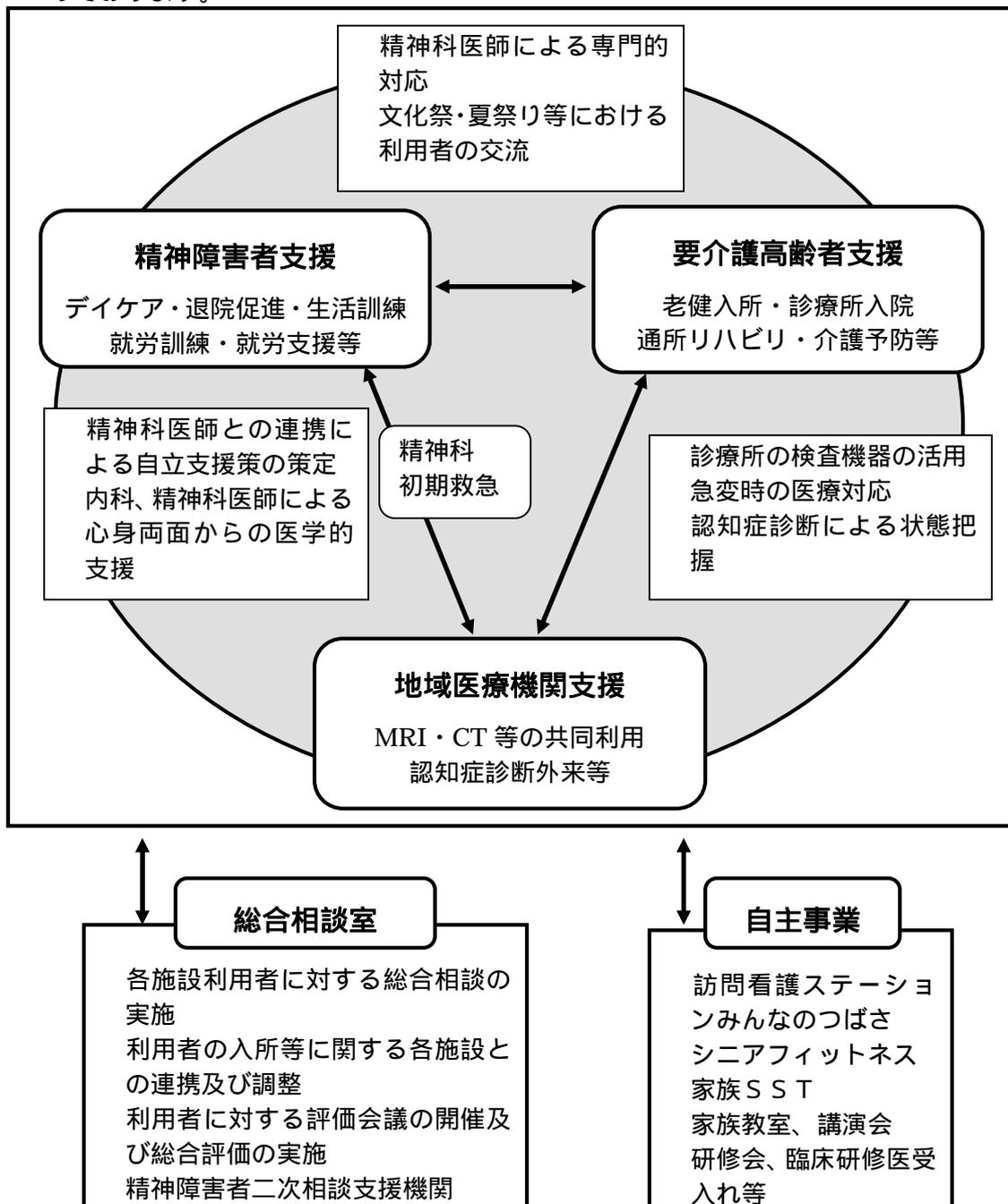
平成24年度は、精神障害者支援事業 延 122,394 人、要介護高齢者支援事業 延 39,671 人、地域医療支援事業 延 11,864 人、自主事業 延 7,427 人の利用がありました。

事業		内 訳	年間延 利用者数 (人)	1日平均 利用者数 (人)	稼働率 (%)	定員 (人)
精神障害者支援事業		精神科デイケア	8,549	34.9	87.2	40
		宿泊型自立訓練	5,155	14.1	70.6	20
		自立訓練(生活訓練)	2,242	-	-	12
		短期入所	1,788	4.9	81.6	6
		就 労 訓 練	4,387	18.3	76.1	24
		職 場 実 習	637	2.6	-	-
		就労支援センター	3,897	-	-	-
		神奈川区生活支援センター	35,459	100.4	-	-
		磯子区生活支援センター	28,032	79.4	-	-
		港北区生活支援センター	32,248	91.3	-	-
	合 計	122,394	-	-	-	
要介護高齢者支援事業		入 所	28,158	77.1	96.4	80
		施設サービス	25,211	69.1	-	-
		短期入所	2,947	8.1	-	-
		通 所 リ ハ	4,831	15.7	78.7	20
		診 療 所 病 床	6,682	18.3	96.4	19
	合 計	39,671	-	-	-	
地域医療支援事業		認 知 症 診 断	845	-	-	-
		認 知 症 外 来	3,660	-	-	-
		生活習慣病外来等	4,571	-	-	-
		共同利用検査(放射線検査)	2,440	-	-	-
		共同利用検査(生理検査)	348	-	-	-
	合 計	11,864	-	-	-	
自主事業		訪 問 看 護	4,072	-	-	-
		シニアフィットネス	3,137	-	-	-
		家族SST	90	-	-	-
		認知症家族教室等	54	-	-	-
		ケアマネジャー研修等	74	-	-	-
	合 計	7,427	-	-	-	

横浜市総合保健医療センター管理運営事業

横浜市総合保健医療センターは、保健・医療・福祉の専門機関や関係団体と地域の皆様が有機的に連携し、在宅で援護を必要とする方々に対して、総合的、一体的なサービスを提供する「地域ケアシステム」を専門的・総合的に支援する目的で開設されました。

当センターは、「精神障害者支援」「要介護高齢者支援」「地域医療機関支援」の3つの事業・施設から構成されますが、これらは各々独立したものではなく、それぞれの機能を発揮するために相互に連携・協働し、一体となって在宅支援を行います。総合相談や自主事業、受託事業も3つの事業を直接、間接に支持するものです。また、家族教室や講演会などを通じ、疾病に対する正しい理解やその予防方法等の啓発にも努めております。



1 精神障害者支援事業

近年の障害者、特に精神障害のある方々を取り巻く状況は大きな動きを見せています。

障害者自立支援法による障害福祉サービスの再編のみならず、いわゆる社会的入院を余儀なくされている方々の地域生活への移行、あるいはうつ病による職業生活の中断など、精神疾患のある方々が直面する問題への関心が従来に増して高まり、それをいかに解決するかが大きな社会的課題になっています。それは、精神保健の課題がより身近なものであり社会全体で取り組むべきものという認識の広がりを表すものと言えます。

一方、横浜市の障害者プラン（第2期）では、障害者の自己選択と自己決定の実現を図る社会の構築を基本理念として、「障害者が自らの意思で生活を決めることができる社会」、「障害者が住み慣れた地域で生活を送れる社会」、「障害者が安心して日々の生活を送れる社会」、「障害児の学習環境を整備し、生活を支えていく社会」を目指すべき社会と位置付けています。

こうした社会的課題を解決し目指す社会を実現するためには、多様なサービスを用意し、地域社会の中で統合的にかつ継続して提供する体制が不可欠です。総合保健医療センターでは、このような認識に立ち、精神障害のある方々が「地域のなかで、自分の生活のスタイルを自分で決めていける暮らしができる」ことをあるべき状態ととらえ、この考えのもと、以下の運営方針により精神障害者支援事業に取り組んでいます。

1 「人権」「主体性」を基本におく支援

利用者の人権を守り、それぞれの意思と選択に基づいた支援を行います。

2 「地域生活重視」の視点に貫かれた支援

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるための支援を行います。入・通所型サービスでは利用期限を設け、短期間で目標を達成する支援を行います。

3 計画に基づく支援

利用者のニーズを適切に把握し、計画に基づいた支援を行います。

4 一人ひとりのニーズに合わせた支援

利用者個々のニーズに合わせ、医療・生活・就労の各事業が連携・協働しトータルな支援を行います。

5 他の社会資源との協働による支援

地域の支援ネットワークの一員として、他の社会資源との協働による支援を行います。

また、利用者の地域での生活に必要な継続的サービス提供体制を関係機関とともにつくります。

6 社会的課題を踏まえた先駆的な支援

常に社会的課題への視野を持ち、課題解決を図るための先駆的な支援技術・支援プログラム開発に取り組みます。また、得られた成果は積極的に関係機関に提供し、地域社会全体の支援技術向上を図ります。

平成24年度は、精神科デイケアにおける診療報酬改定に伴う個別診療計画の策定と新たなプログラムの検討、就労訓練係における就労移行支援事業所としての訓練体系・プログラムの検討、各生活支援センターにおける「指定特定相談支援事業所」としての事業開始の準備を進めてきました。

横浜市総合保健医療センター精神障害者支援施設では、精神障害者の医療、生活、就労にわたる市内唯一の総合的支援施設として、今後もその責務を認識し、当事者の支援を進めるとともに、積極的な啓発活動を通じて当事者が自らの選択と決定により生活することができる地域社会の基盤形成に努めてまいります。

(1) 精神科デイケア (定員 40 人)

精神障害のある人が、社会参加や生活の自立といった個別の目標や希望に近づけるように、グループ活動と個別面接を通じたりハビリテーションを行っています。

グループ活動では、心理社会的治療を行う機能を拡充し、利用者各自の目標に向けて、SST (対人関係の技能の訓練) 心理教育 (疾病理解と自己対処能力の獲得) 集団認知行動療法、就労準備プログラムなどのプログラムを実施しました。

また、うつ病やうつ状態により休職している人を対象とした4か月間の「復職サポートプログラム」では、開始から平成25年3月までに13グループが終了しました。112人が参加し、内100人がプログラムを完遂し修了しています。プログラムの効果検証及び改善を目的とした追跡調査も行いました。また、修了者に対しては、平日の夜間帯に、神奈川区及び港北区生活支援センターで、両生活支援センター職員と連携して毎月1回ずつミーティングを実施する等、当財団の機能を活かした「フォローアップ事業」も行いました。

利用者の御家族に対しても、精神疾患への理解を促し対処技能を高めるための「家族プログラム」を毎月1回実施する等、当事者支援に限定しない多面的な支援を展開しています。

ア 平成24年度のデイケア利用者状況

平成24年度 精神科デイケア利用者状況

新規利用者 (94人)	登録者 (286人)	利用終了者 (148人)
気分感情障害 56人	平成24年度登録者 286人 (延利用者数 8549人)	就職・就学・復職・復学 45人
統合失調症 32人		福祉的就労 8人
神経性障害・ストレス関連障害及び 身体表現性障害 2名		家庭内適応 他施設移行 26人
発達障害圏 2人		自宅閉居・中断・入院 33人
その他 2人		非該当 10人
		通所期限満期 26人 (再利用)

* 本表は24年度中における利用開始、登録、終了の状況をそれぞれ示したものである。従って終了者は24年度中の利用開始者とは限らない。

イ 一般デイケア プログラム 実施状況

プログラム		人数	回数
スポーツ系		923	90
創作系		736	88
調理系		461	67
レクリエーション		1221	115
話し合い		395	39
診療計画作成		243	30
行事関係		465	26
外出系		84	9
社会資源見学		23	2
専門講習		1395	192
音楽療法		208	19
家族プログラム		72	10
心理社会的 治療プログラム	心理教育(疾患別疾病教育/社会資源)	170	25
	SST(基本訓練/ステップバイステップ/就労)	185	28
	就労準備(基礎/直前/基礎トレーニング)	106	17
	集団認知行動療法(基礎/応用)	78	20

ウ 復職サポートプログラム

(ア) 平成 24 年度 実施グループ数及び利用者数

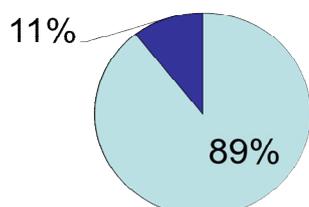
実施グループ	3 (11 期、12 期、13 期)	実人数	33 人
--------	--------------------	-----	------

(イ) 修了者への追跡調査

平成 21 年 10 月の復職サポートプログラム開始時から平成 25 年 3 月までにプログラムを完遂した修了者を対象に、平成 25 年 2 月末に郵送によるアンケート調査を実施しました。住所を把握している 90 名に送付し 43 名から回答を得て、回収率は 48%でした。

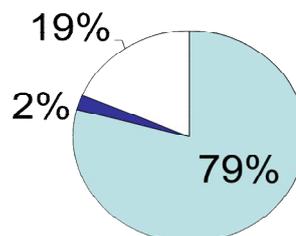
リワークプログラム完遂率
(13期まで)

■ 完遂100名 ■ 中断12名



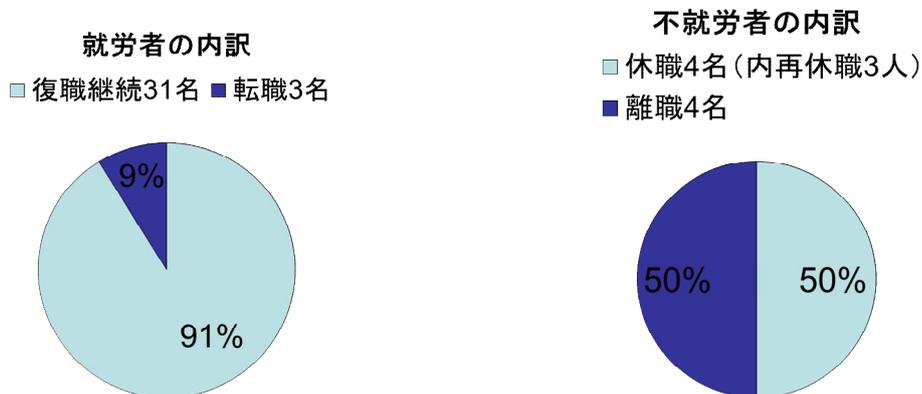
就労状況(2013年2月時点)

■ 就労34名 ■ リハ出勤1名
□ 不就労8名



アンケートの結果、修了者の約79%が復職し、約2%がリハビリ出勤や一般デイケアへの通所等のリハビリテーションを継続していることが解りました。

また、就労者及び不就労者の内訳については、就労者は復職継続が91%、転職が9%でした。不就労については、休職中が50%、離職者が50%でした。



(ウ) 復職サポートプログラム フォローアップ事業 実施状況

修了者への支援として、フォローアップミーティングを実施しました。同じ立場や経験を分かち合うことで互いに支え合う場を提供しています。同時に、相談支援機関であり居場所提供機能もある生活支援センターで、生活支援センター職員と協働で行うことで、必要な方には、相談支援や他の福祉サービスへの切れ目のないスムーズな移行を実現しています。

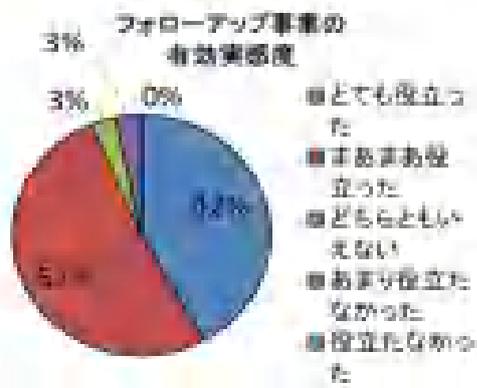
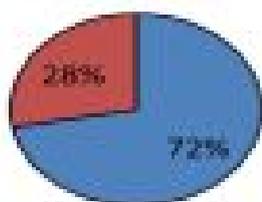
2012年度 フォローアップ月別参加者

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
港北区 生活支援センター	男性	3	4	3	3	2	5	4	2	4	6	3	1	40	100
	女性	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	2	7	
神奈川区 生活支援センター	男性	5	3	4	4	5	4	3	4	6	4	1	4	47	
	女性	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	6	

また、修了者へのアンケート調査によると、回答者の7割以上がフォローアップミーティングに参加した経験があり、その94%が役立ったと回答しています。

フォローアップ事業の出席経験

- 出席したことがある
- 出席したことがない



エ 家族プログラム 実施状況

昨年度に引き続き今年度も、原則毎月1回、一般デイケア利用者の御家族を対象にした家族支援プログラムを実施しました。前半に講義形式で「精神疾患と精神障害への正確な知識を伝える心理教育」を行い、後半にグループワークで、御家族のストレスをケアする「対人関係のスキルを習得するSSTグループ」と「気持ちや悩みを分かち合い情報交換する話し合いグループ」を行う2部構成とし、年間を通じて多くの御家族に参加していただきました。

2012年度 家族プログラム月別参加者

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月	3月	合計
家族数	18	14	15	12	9	7	11	11	8	10	115
参加人数	18	15	15	12	9	7	11	11	8	11	117

(2) 精神障害者生活訓練

生活訓練から地域生活への移行は、できていることやできそうなことを伸ばしながら様々な社会資源を補助的に使うことにより自信を回復していく過程です。生活訓練ではそのステップとして利用者が本来備えている「力」を活かし、そして個々のニーズに応じた様々なプログラムにより地域生活を想定した体験の場を提供してきました。

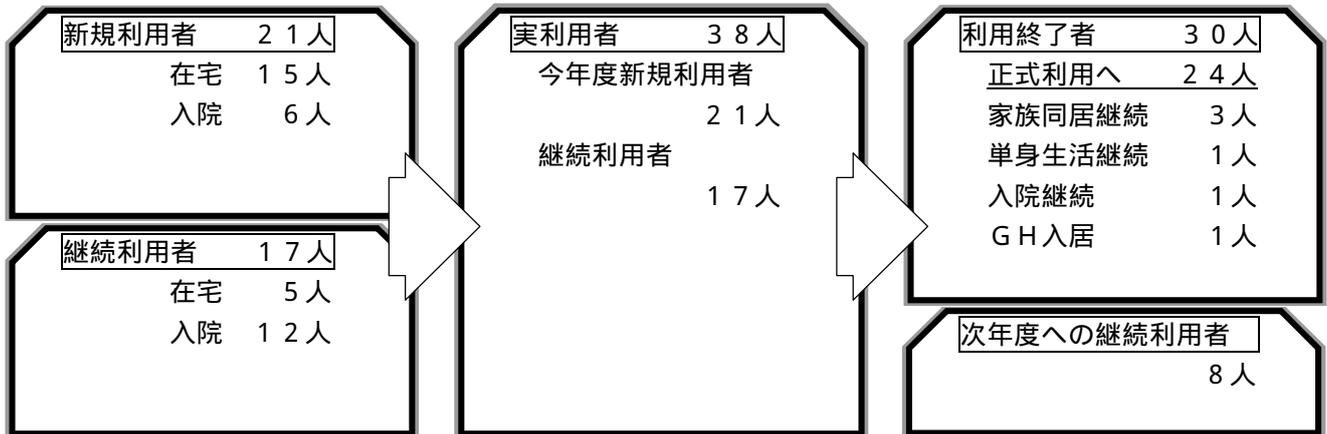
ロングステイ(長期利用)ではスタッフは利用者一人ひとりのニーズを検討し、自立支援法による「宿泊型自立訓練」と「自立訓練(生活訓練)」や通所施設等の日中活動系事業を組み合わせながら、利用者と共に地域生活への移行と定着に向けた共同作業を展開しました。

ショートステイ(短期利用)では利用者の生活状況に合わせ利用提供を行いました。

精神科病院における長期入院という社会的な課題に向けて、今年度も複数回の病院巡業「院内説明会」や出前PR活動などの啓発活動を継続して実施しました。

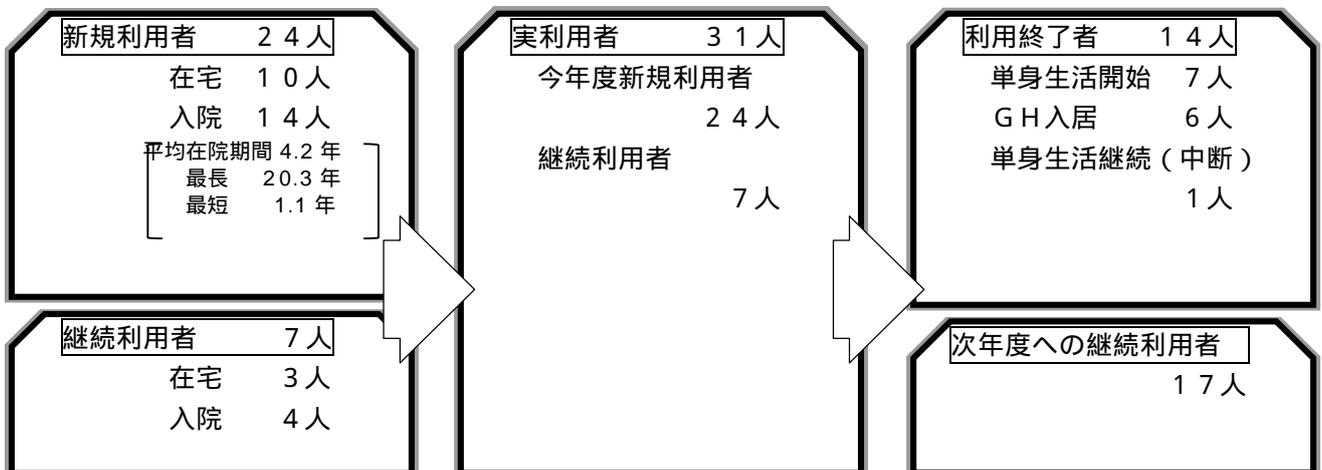
ア ロングステイ(長期入所) 定員/宿泊型自立訓練20人・自立訓練(生活訓練)12人
(ア)体験利用

利用者においては正式利用に向けたイメージ作りと将来の生活などを考えていただく期間、支援者においてはアセスメント等の期間になります。またこれらを通じて関係作りを進めています。



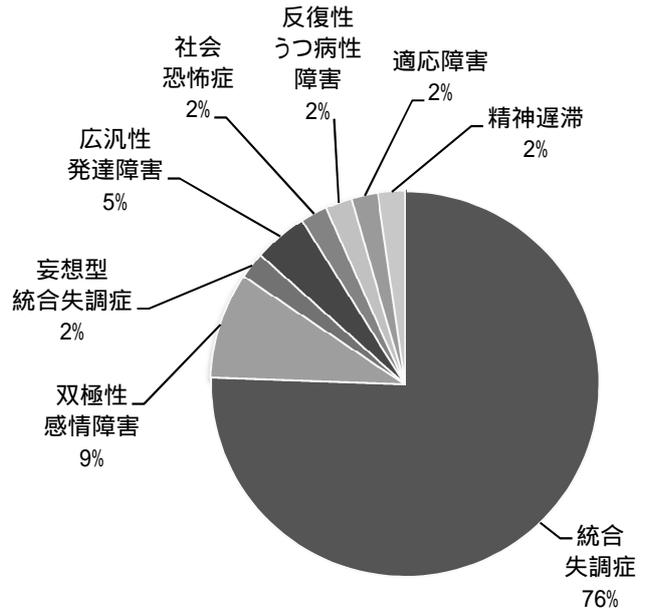
(イ)正式利用

国が標準とする利用期間2年間に比べ短期間である6か月間(原則として、最長6か月間の延長可能)という設定により、施設生活における負荷を軽減し実生活を想定した支援を提供しています。



ロングステイ実利用者数45名の診断名

統合失調症	34人
双極性感情障害	4人
妄想型統合失調症	1人
広汎性発達障害	2人
社会恐怖症	1人
反復性うつ病性障害	1人
適応障害	1人
精神遅滞	1人



(複数の診断名がある場合は第一義の診断名でカウント)

	男性	女性
最低年齢	22歳	21歳
最高年齢	70歳	65歳
平均年齢	44歳	43歳
実人数	23人	22人

ロングステイ	実利用者数(体験+正式)	45人
	延利用者数(体験+正式)	5765人
	一日平均	15.79人
宿泊型自立訓練	実利用者数(正式)	31人
	延利用者数(正式)	5,155人
自立訓練(生活訓練)	実利用者数	39人
	延利用者数	2,242人

自立訓練プログラムにおける集団プログラムでは生活維持に関する基礎的なことや再発予防的な多岐にわたる内容としました。こうした集団プログラムにおける体験から利用者個々のニーズに合わせて個別プログラムを設けました。

	コース	実施曜日	内容
集団プログラム	基礎づくり	火	金銭管理・調理・生活リズム 等
	体調管理	木	レクリエーション・軽運動・歯の健康 等
	地域生活準備	金	近所付き合い・防犯対策・グループホーム見学 等
個別プログラム	面接・個別生活訓練・同行・訪問		
通所・通勤			

自立訓練プログラム参加者数はロングステイ在籍者数の上昇に合わせて回復しています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	109人	127人	153人	193人	204人	210人	212人	200人	172人	232人	219人	211人

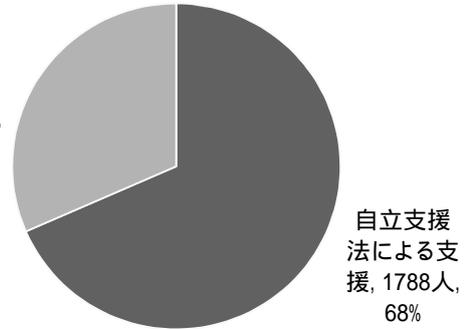
イ 短期入所（ショートステイ） 定員 / 6人

原則1週間以内の利用を通して、休息や家族との分離、自立生活の体験等それぞれの利用目的に応じた支援を行いました。さらに地域の要望に応える緊急避難的な受け入れを継続します。

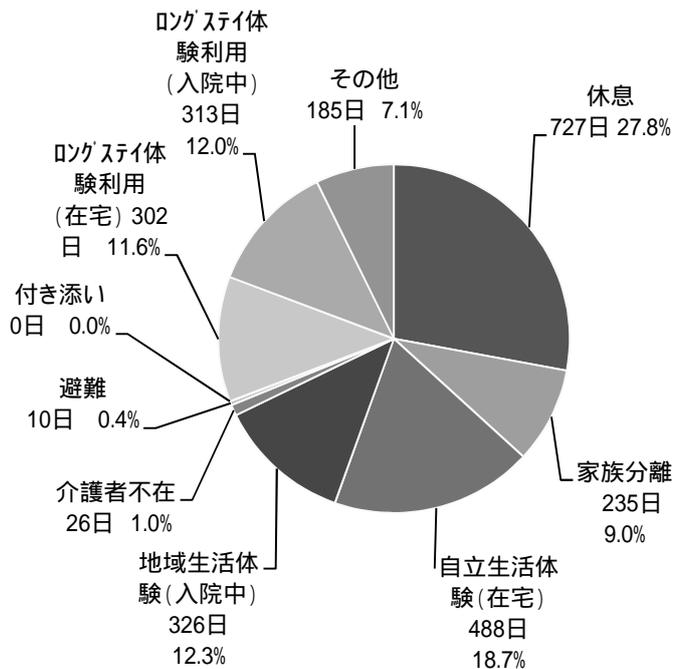
横浜市独自の取り組みである地域生活推進事業（通称チャレンジ事業）の継続により、精神科病院からの退院を目指している方へ、病院外での生活体験や自立訓練事業の体験利用の機会を提供しました。

	延利用者数
障害者自立支援法による支援	1,788人
上記法によらない支援	824人

自立支援法によらない支援, 824人, 32%



利用目的	延べ日数	利用件数
休息	727日	184人
家族分離	235日	76人
自立生活体験（在宅）	488日	138人
地域生活体験（入院中）	326日	97人
介護者不在	26日	5人
避難	10日	2人
付き添い	0日	0人
ロングステイ体験利用（在宅）	302日	54人
ロングステイ体験利用（入院中）	313日	60人
その他	185日	12人
合計	2612日	628人



	男性	女性
最低年齢	20歳	19歳
最高年齢	80歳	83歳
平均年齢	44.8歳	42.3歳

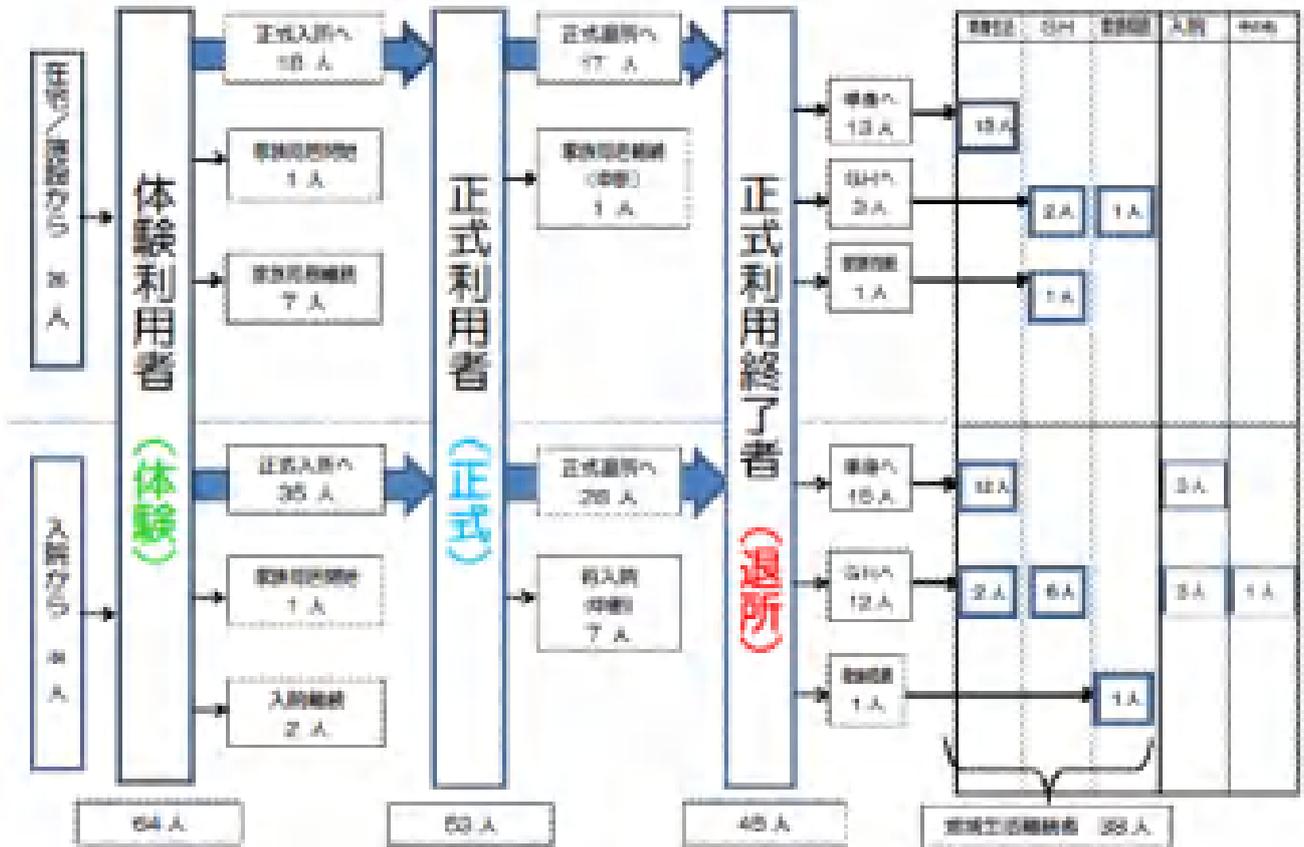
平均障害程度区分	2.24
----------	------

横浜市委託事業	事業名	実利用者数	延べ利用者数	延べ利用日数
	横浜市精神障害者地域生活推進事業	47人	157人	639日
その他	9人	13人	185日	

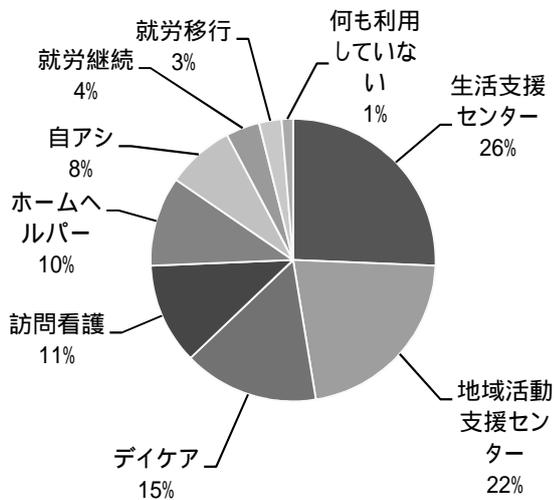
ウ 追跡調査

当生活訓練利用後の動向について毎年度末に追跡調査を実施しています。今年度の対象は2008年度から2010年度までの間においてロングステイの正式利用を終了された方です。

正式利用終了者45人のうち38人が単身生活、グループホーム入所、家族同居をされており、定着率は84.4%となっています。

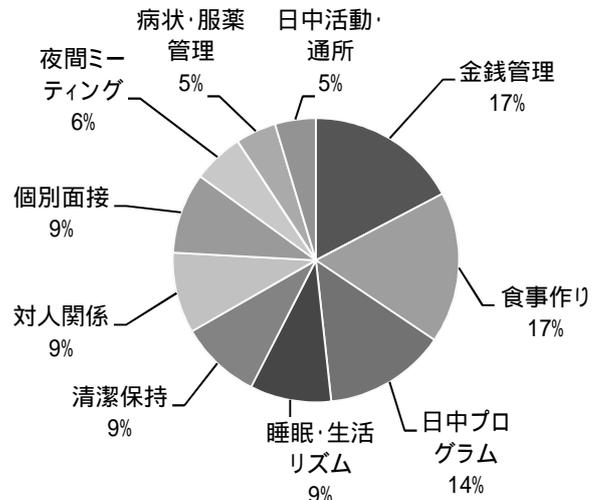


利用しているサービス(複数回答)



(自アシ = 自立生活アシスタント)

役に立った訓練(複数回答)



エ 普及啓発活動

(ア) 病院巡業と出前 P R

病院巡業では精神科病院に入院中の方々へ地域関係機関と連携し啓発活動とネットワークづくりの環境として実施しました。

出前 P R では区役所、生活支援センター、医療機関等の場をお借りして、精神障害者における制度活用や支援者との研修事業、横浜市総合保健医療センターの利用案内などを展開してきました。

いずれも参加者の関心は高く、今後も医療機関の協力をいただきながら推進していきます。

	当事者（総数 144 人）	関係者（総数 43 人）
--	---------------	--------------

病院巡業

3 月 6 日	日野病院入院中の方、デイケア利用の方	38 人	13 人
3 月 12 日	紫雲会横浜病院入院中の方	35 人	14 人

出前 P R

2 月 21 日	泉区福祉保健センター生活教室の方	12 人	3 人
----------	------------------	------	-----

生活訓練（ハイツかもめ）見学

5 月 17 日	港北区福祉保健センター生活教室の方	23 人	5 人
5 月 25 日	日野病院入院中の方	8 人	1 人
6 月 21 日	堀口クリニックデイケア通所者の方	8 人	2 人
7 月 11 日	紫雲会横浜病院入院中の方	3 人	3 人
11 月 16 日	港北病院入院中の方	17 人	2 人

(イ) オリジナル冊子「ひとり暮らしのコツ集めてみました。」の販売

当生活訓練でのプログラムや個別支援から見えてきた障害があっても地域で生活していけるノウハウをまとめた生活実践型ハンドブック「ひとり暮らしのコツ集めてみました。」を継続して販売しました。多くの方に関心を持っていただいています。

	平成 2 4 年度分	累計冊数
通信販売（電話・ファクス・Eメール）	1 2 4 冊	1,0 1 8 冊
窓口販売（生活訓練窓口や関係機関などでの販売）	4 4 冊	7 2 6 冊
関係機関等への配布	0 冊	6 8 0 冊
合計	1 6 8 冊	2,4 2 4 冊

(3) 就労訓練

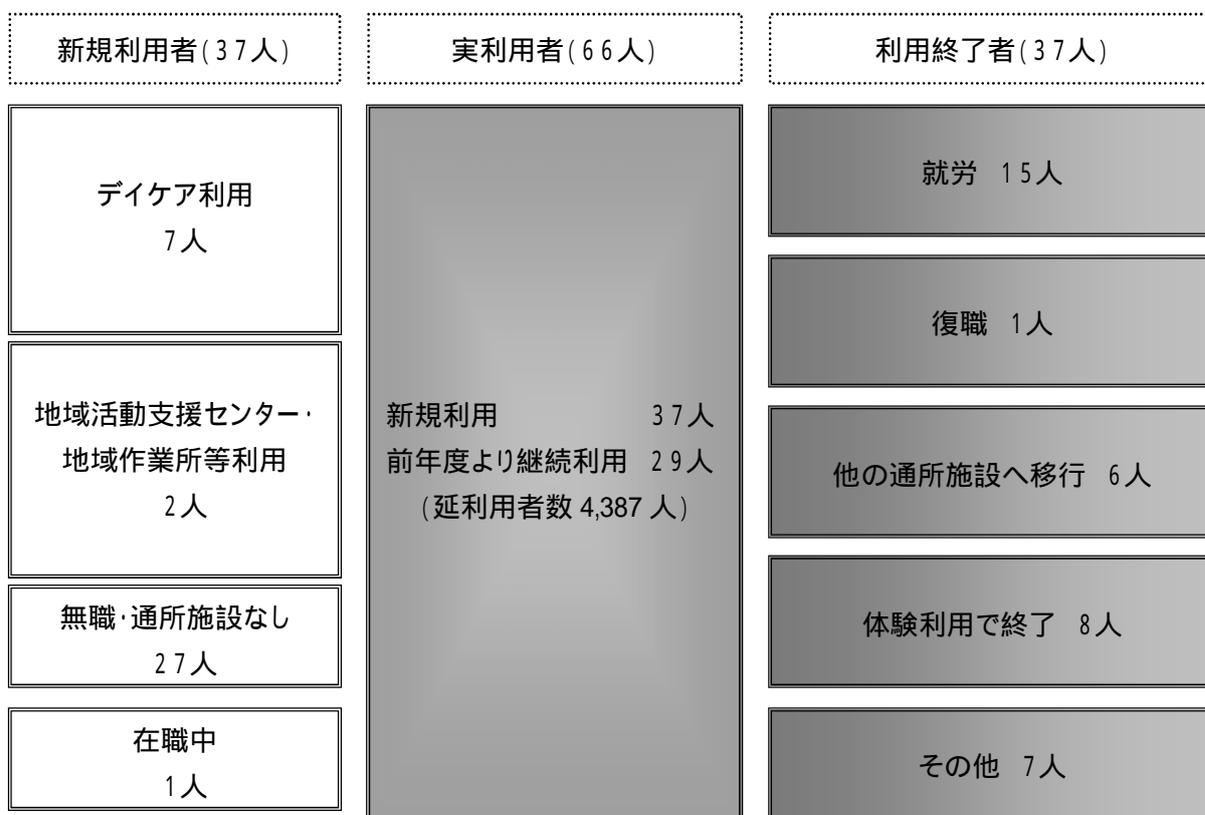
6か月訓練コース（障害者総合支援法による就労移行支援事業）と、法外事業である1か月評価コースのふたつの利用形態を設け、就労を目指す方々に訓練と評価の場を提供しています。

ア 事業の概要と利用状況

(ア) 6か月訓練コース（就労移行支援事業所 定員 24人）

働く上で必要となる基本的な生活習慣を形成しながら、職業生活の体験を通して就労準備性の向上を図ることを目的としたコースです。施設のなかでの作業訓練だけでなく、企業内訓練（集団による職業体験）や職場実習（利用者個々の適性・めざす職種に応じた企業実習）を重視し、実際の企業環境の中で働く体験を重ねることにより、実践的な力を育むとともに働くことに対する関心、意欲を醸成することを支援のねらいとしています。さらに、就労への移行にあたっては利用者一人ひとりの希望を重視しながら求職活動支援、職場定着支援を行います。

平成24年度 6か月訓練コース 利用者の状況



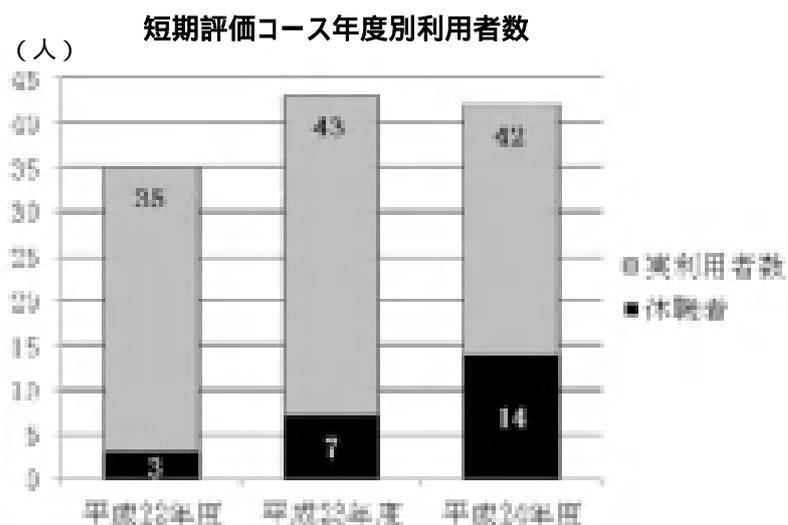
開所日数	240日
実利用者数	66人 (男性53、女性13)
延利用者数	4,387人
1日平均利用者数	18.3人
企業内訓練参加者総数	335人
職場実習参加者総数	141人

<企業内訓練実施内容>

- ・クリーニング工場での洗濯物の仕分け
- ・配送センターでの片付け作業・顧客向けチラシの配布準備・商品注文票データの入力
- ・高齢者施設での共用部の清掃（2施設で実施）
- ・図書館での蔵書カバーかけ・蔵書データに関するPC作業等

(イ) 短期評価コース

1か月の短期通所訓練を通して、就労を希望する精神障害者の職業準備性や課題、作業特性等について評価を行うことを主眼とした法外の事業です。訓練を通して利用者ご本人、関係する機関の方とともに、就労実現への手立てを考えていきます。また、職業準備訓練の体験を目的とした利用や、最近では、うつなどで休職されている方の復職準備を目的とした利用も増えています。横浜市内ではこのような短期間の通所訓練の場が他にないこともあって、本コース利用者の状況やニーズは多様になっています。



開所日数	240日
実利用者数	42人(男性29、女性13)
延利用者数	517人
1日平均利用者数	2.2人

イ その他のプログラム実施状況

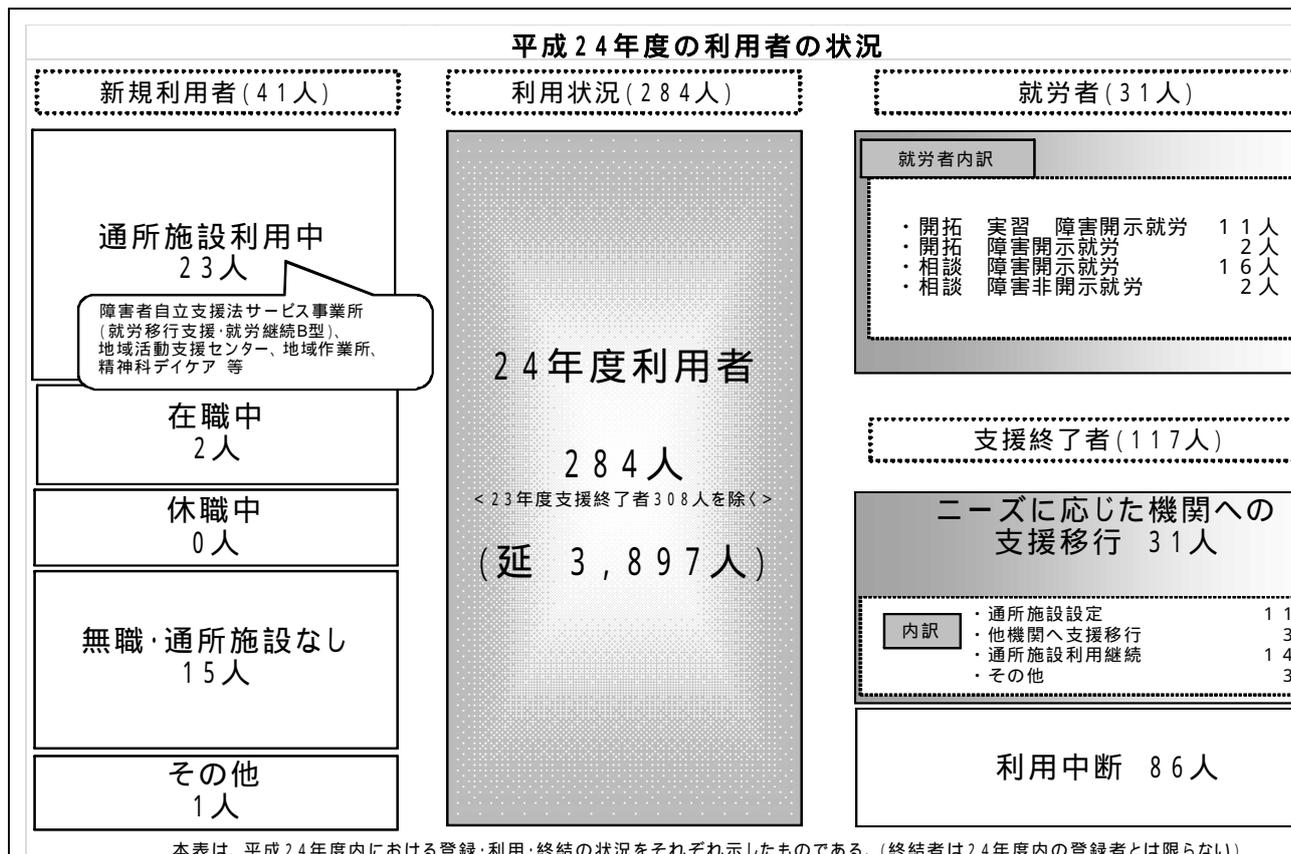
活動名	実施回数	延参加者数	テーマ・内容・ねらい
就労セミナー	23回	358人	「生活リズムと体調管理」「ストレスについて」 「職場マナーと対人関係」 「自分に合った仕事の見つけ方」等
就労SST	22回	64人	職場での基本的な対人対処についてロールプレイを通して学ぶ
職場見学会	5回	39人	職業の実際場面を見学し、働くイメージを広げる
家族会	6回	68人	「港風舎の支援」「障害者雇用の現状」「就労にあたって必要なサポート」等

就労訓練係では、出来る限り短期間の訓練により就労を実現すること、障害状況だけでなく生活スタイルや職業に対する希望を含めた多面的な評価に基づく支援を行うこと、さらに企業環境での実体験を重視することを基本方針に置き、事業を進めています。平成24年度は特に企業内訓練の充実に努め、12月より新たに高齢者施設での訓練を開始しました。また、短期評価コースでは、うつなどの感情障害により休職されている方の利用が増加しています。

当事者のニーズや社会の変化に対応するため24年度は新たな支援プログラムの検討に着手し、評価機能の強化とともに企業内訓練と施設内作業や各種セミナーを結びつけたプログラムを26年度から開始する予定です。係では、今後も就労支援センターや他の就労移行支援施設と連携を図りつつさらに効果ある支援の展開に取り組んでまいります。

(4) 精神障害者就労支援センター「ぱーとなー」

平成24年度は、当センター利用の仕組みを見直し、1年間の利用登録制にしました。これは、支援期間を1年間に限定するものではなく希望される方は登録更新をしていただく制度ですが、1年毎に利用継続希望の有無、希望される支援内容の確認をして、より適切な支援を行っていくことを目的にしたものです。全ての利用者の方に就労支援センターの支援継続希望かを確認し、支援継続を希望される方とは面談を行って利用の確認書の取り交わしを行いました。この確認過程の中で支援の継続は希望されず、支援終了となった方が117名いらっしゃいました。支援継続を希望された方とは、全員の方と面談の上希望される支援内容を確認して、支援計画書の取り交わしを行いました。



ア 相談及び調整

就労に関する相談に対応し、本人の能力や適性・希望により、支援計画を策定しました。また、すぐの就労ではなく、就労前の準備を希望される方や、生活面の支援を希望される方などには、ご本人に希望に沿った施設・機関の紹介を行いました。

(件)

	新規相談			継続相談			合計		
	電話	来所	合計	電話	来所	合計	電話	来所	合計
計	158	206	364	2,257	1,276	3,533	2,415	1,482	3,897
1日平均	0.64	0.84	1.49	9.21	5.21	14.42	9.86	6.05	15.91

イ 当事者支援

(ア) 体験実習、雇用前実習、就労継続支援

協力企業や訓練施設での体験実習による適正な就労条件の設定、雇用前実習による就労不安の解消を行いました。実習の場にはジョブコーチを派遣して企業と障害者の橋渡しを行い、双方の課題解決のための支援を行いました。また、就労後の職場定着のためのジョブコーチ派遣も行いました。

延実施回数 (回)

体験実習	238
雇用前実習	64

(件)

同行	体験実習関係	雇用前実習関係	求職関係	その他	計
	8	2	21	34	65
同伴作業	準備訓練中	移行型実習中	就労後		計
	75	61	55		191
訪問	体験実習中	雇用前実習中	就労後	その他	計
	6	14	140	20	180

(イ) 就労者の会

就労者相互の親睦を深めるとともに、就労継続支援の一環として実施しました。

	実施日	場所	内容	参加人数
1	9/21(金)	横浜市総合保健医療センター	自己紹介・近況報告等	利用者 30 人/職員 6 人
2	3/15(金)	横浜市総合保健医療センター	(食事をしながら懇親)	利用者 31 人/職員 6 人

ウ 事業所支援

企業等に対し、障害者雇用についての相談・支援を行いました。(件)

新規雇用相談	未登録在職者相談	登録在職者相談	合計
1	50	51	102

エ 関係機関支援

(ア) 個別就労相談・就労講座

関係機関が開催する個別就労相談・就労講座に職員を派遣しました。(回)

就労相談		就労講座	
神奈川区生活支援センター	2	青葉区生活支援センター	1
ほっとサロン青葉	8		

(イ) 講師派遣

	実施日	派遣先	内容
1	7/25、11/14	職業能力開発大学校講師	精神障害者の就労支援講義
2	11/15	ハローワーク ジョブガイダンス	就労を目指す人を対象とした研修会
3	12/8	戸塚就職者ミーティングアドバイザー	就労中の当事者によるグループワーク

(ウ) 職員派遣

障害者就労支援センター連絡会
神奈川地域就労援助・支援センター連絡協議会
北部就労促進ネットワーク会議
神奈川県精神障害者就労援助機関連絡会
市精連研修事業部・スタッフ会議
市健康福祉局障害企画課就労支援係 企業シンポジウム

(5) 横浜市港北区精神障害者生活支援センター

港北区生活支援センターは、平成21年6月から業務を開始しました。同時に相談支援事業所の指定を受け、幅広く相談支援を行うとともに、生活支援の一環として食事、入浴サービス等を実施しました。くつろぎの場としての環境整備や出会いの場・仲間づくりとしてイベント等を行い、地域の各機関と連携を取りながら、地域で暮らす精神障害者の生活支援、自立に向けての支援を実施しました。また、平成23年度から新たに地域移行・地域定着支援事業（旧名称～退院促進事業）を開始するとともに、これまで生活訓練係で行っていた自立生活アシスタント事業を引き継ぎ、生活支援センターで実施しました。

- ア 開設場所 横浜市港北区鳥山町1735 横浜市総合保健医療センター4階
 イ 利用時間 午前9時から午後9時まで
 毎月第一水曜日休館（第一水曜日が祝日と重なる場合は、翌日休館）

ウ 利用状況及び支援内容

(ア) 利用者数内訳 (人) (日)

全体	内訳						開所日数
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行	
27,454	7,813	2,667	170	399	16,309	96	353

(イ) 相談支援 (人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21,395	8,942	7,367	1,412	623	64	32	2,264	686
1日平均	46.2		5.8		0.3		8.3	

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
43回	50	26	16	8

(ウ) 生活支援 (人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
4,543	3,405	1,138	287	213	74	58	51	7
1日平均	12.9		1日平均	0.8		1日平均	0.2	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
723	590	133
1日平均	2.0	

エ 利用登録内訳

利用登録の有無にかかわらずセンターは利用できますが、有料サービスを利用する場合には登録が必要です。

(ア) 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	不明	合計	最高	最低	平均
男性	2	50	154	205	124	69	0	604	82	18	44.7
女性	1	32	133	105	54	29	2	356	83	19	42.4
合計	3	82	287	310	178	98	2	960	83	18	43.9

(イ) 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
69	80	12	39	46	32	39	38	20	18
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
293	60	32	40	27	11	15	16	73	960

オ 自主企画事業

スタッフが企画をし、目的を持って運営しているプログラムや、利用者ミーティングなどの意見を反映し、利用者、ボランティアと一緒にしている行事等実施しています。

	名称	回数	参加人数
プログラム・行事	利用者ミーティング	12	136
	プログラムミーティング	5	57
	リワークフォローアップ	12	65
	昼食会・クリスマス昼食会	5	87
	お花見(桜・梅)	2	22
	場の提供プロジェクト～あなたの夢を叶えましょう！～	7	36
	3周年記念夕食会(準備・飾りつけ・記念品作り含む)	4	52
	納涼会(準備・飾り作り・買い出し、当日の1部・2部含む)	9	105
	新年会(ボランティアとの打ち合わせ含む)	2	37
	文化祭(買い出し・パネル作り・打ち合わせ等準備含む)	7	184
その他	区共催精神保健福祉講座「お酒に困っていませんか？」	1	32
	精神保健福祉研修会	1	50
	地域支援事業(ほっとタイム事業)	5	70
	発達障害者相談	6	9
	運営連絡会	2	61
	合計	80	1,003

カ 場の提供

日常生活支援の1つに仲間づくり等の機会や場の提供があります。

サークル活動は、利用者自らが企画、運営し、スタッフが側面から支援しています。

利用者同士のの趣味や語りを通じた交流の場として機能しています。

名称	回数	人数
サークルA	97	631
サークルB	36	193
サークルC	5	56
サークルD	3	13
サークルE	2	16
あみねっとサロン（精神保健福祉ボランティアグループ主催）	10	369
フラワーアレンジメント（精神保健福祉ボランティアグループ主催）	1	17
合計	154	1,295

キ 地域交流

地域の関係機関、関係団体等と連携をしながら、地域に開かれたセンターづくりを進めています。

名称	回数	人数
港北区精神保健サロン（あったかだ）	1	2
さくらんぼの会 総会	1	1
家族会（港北区白梅会）新年会等参加	2	3
ボランティアグループ等との話し合い・打ち合わせ	5	36
コンサート実行委員会（当事者グループ）	5	24
区内作業所・ケアプラザ等訪問	2	2
中区生活支援センター開所式参加	1	1
ボランティア講座受け入れ	2	16
ラジオ取材 ～川崎市高津区生活支援センター～まんまる～	2	11
さくら会見学会	1	21
合計	22	117

ク 地域会議等

区の自立支援協議会を始め、地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有化等を行います。

名称	回数	人数
港北区自立支援協議会（全体会・代表者会）	10	20
港北区精神保健福祉連絡会	1	2
横浜市発達障害者検討委員会（モデル事業報告会含む）	4	4
横浜市生活支援センター連絡会（定例会、その他）	5	6
合計	20	32

ケ 地域支援事業（ほっとタイム事業）

平成 23 年度より

(ア) 家族と当事者が一緒になって、ゆっくり語り合える場を提供する

(イ) 生活支援センターまで来られない人たちの居場所づくり

(ウ) 生活支援センターの利用につながっていない当事者・家族の把握、支援を実施しています。

	5月19日	7月14日	9月8日	12月8日	H24年2月9日
参加者数	17人	14人	12人	12人	15人

「カフェ社」にて、5回開催しました。

コ リワークフォローアップ事業

平成 22 年度から、総合保健医療センター精神科デイケアの「復職サポートプログラム」の修了者を対象として、生活面のフォローアップを行う事業を毎月 1 回実施しています。

全 12 回、65 人の参加がありました。

ナ 発達障害者支援モデル事業（市町村サポートコーチ事業）

平成 23 年度から、健康福祉局障害企画課、横浜市発達障害者支援センター、港北区高齢・障害支援課と共に、本事業を開始しました。24 年度は 6 月から「専門相談日」を設置し個別相談をお受けしました。また毎月 1 回、区役所、地域活動ホーム、発達障害者支援センターとともに「打ち合わせ会議」を行い、情報共有や意見交換等を行いました。

3 月には健康福祉局と発達障害者支援センター主催の本モデル事業の報告会にて、実績報告を行いました。

相談者計	男性	女性
8人	7人	1人

二 地域移行・地域定着支援事業

個別支援実施報告 支援対象者に延べ 561 回の支援を行いました。

支援対象者数	病名	帰結	退院後の帰来先
4人	統合失調症 4人	支援継続 3人 退院後フォロー 1人	GH入所 1人

普及啓発活動実施報告

毎年本事業全体で行ってきた、市内医療機関向けの「病院説明会」を 24 年度も 9 月に行い、本事業の狙いや今後の方向性について説明しました。また、12 月には市保護課職員向けの「医療扶助・介護扶助研修」にて事業説明を行いました。

単一医療機関に対しての活動としては栄区生活支援センター、磯子区生活支援センターと協働の上、以下のように実施しました。

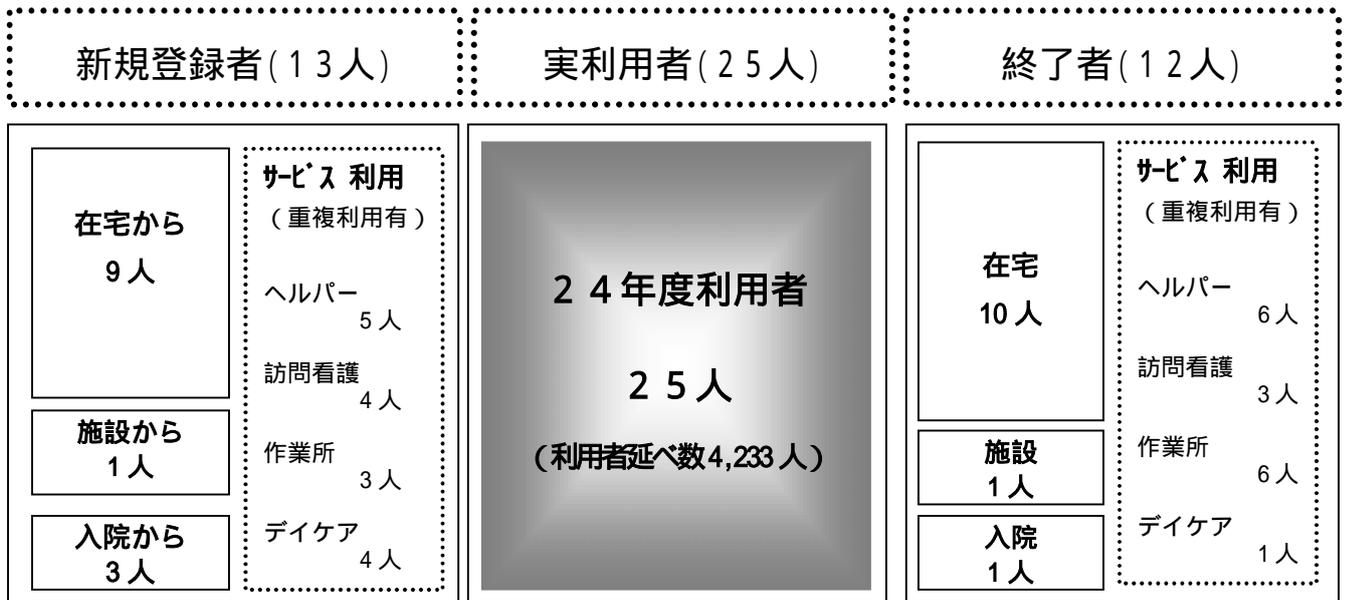
場所	参加者数	対象者・内容等
福井記念病院	約 30 人	対象：横浜市内住所の入院中の方、NS、OT、PSW などの職員 内容：地域資源の紹介と事業利用中の方のインタビュー等

又 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

平成 23 年度より、港北区生活支援センターの付随事業となりました。単身等で生活する利用者、障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるためのマンツーマン支援、アウトリーチ支援を行います。生活の安定や将来に向けたステップアップのための様々な個別の課題への取り組みをサポート、また関係機関との連携作りを行います。

ニーズを明確にし、強みを活かした自分らしい生活を送れるよう支援します。

平成 24 年度 自立生活アシスタント 利用者の状況



本表は 24 年度中における登録、利用、終了の状況をそれぞれ示したものである、したがって利用者及び終了者は 24 年度中の登録者とは限らない。

24 年度利用者の状況、支援方法・内容

世代別・男女別

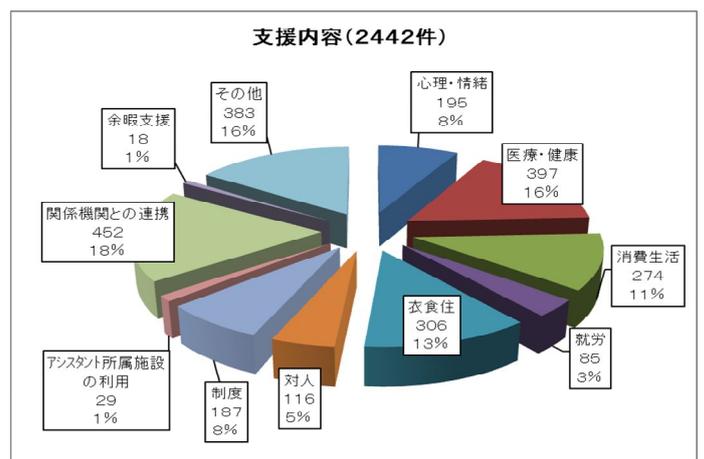
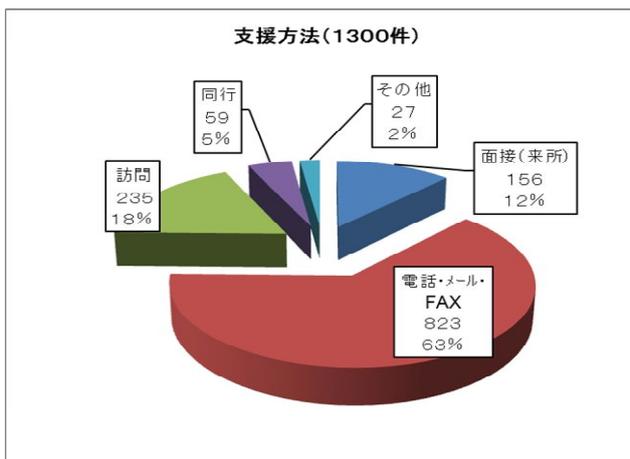
	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	1	7	0	2	11
女性	0	4	3	3	4	14
	1	5	10	3	6	25

利用目的

自立生活 (以外)	自立生活 (同居家族の高齢化・死亡)	退所後の生活安定	退院後の生活安定	その他	合計
6	3	4	5	7	25

世帯状況

家族同居	単身	合計
8	17	25



2 要介護高齢者支援事業

我が国は本格的な高齢社会に移行し、認知症を含む要介護高齢者も着実に増加し、その支援はますます重要となってきています。

センター開設時、市内に3か所であった介護老人保健施設は、介護保険の創設により現在80か所になり高齢者の安心は大きく前進しました。しかし、施設の急速な整備と介護報酬の制約等から専門職員の定着が進まないこと、入所者の医療費は原則として介護報酬に包括されることなどから、医療ニーズを伴う要介護者の利用が抑制されること等の問題も生じています。

センターでは、こうした課題に介護老人保健施設「しらさぎ苑」と「診療所病床」を有機的に連携させることで、介護度と医療ニーズが高いため他の介護老人保健施設では受け入れの難しい方に対応するなど、各部門が連携して取り組んでいます。しらさぎ苑は、全国老人保健施設協会実地研修指定施設でもあり、特色ある運営で要介護高齢者・家族にきめ細かく対応をしています。

平成24年度も、財団の基本理念『「個の尊重」「安心と信頼」を大切に質の高いサービス提供を目指します。』を踏まえ、以下の運営方針により要介護高齢者支援事業に取り組みました。

1 個の尊重と安全で適切なケア

利用者一人ひとりの生活と人生を尊重する姿勢をケアの基本とし、利用者のニーズ、心身の状態に合わせた安全で適切なケア提供に努めます。特に、認知症利用者については、専門医のコンサルテーションや職員のキャリアなどを活用して、適切なケアを提供します。

2 利用者ニーズに即したサービスの提供

業務改善サイクルを活用して、利用者満足度の向上と質の高い療養・介護環境の実現を図ります。また、短期入所や医療処置が必要な利用者等を積極的に受入れ、ニーズに即したサービスを提供します。さらに、評価システムを機能させ、評価・情報公表を積極的に行い、サービスの質の向上に努めます。

3 ふれあい・であいの開かれた施設運営

開かれた施設運営を図り、高齢者の在宅生活を支援するため、地域の人々や自治体・関係諸機関等と協働し、地域ネットワークの構築を目指します。

4 サービスを支える人材の育成

人が人に対して行うサービスは、職員のケアの実践力が鍵となります。要介護高齢者支援サービスの担い手として、確かな知識と技術を基盤にした専門性の高い実践力向上を目指します。また、サービスの質向上のため、専門的・人間的能力の高い実践モデルの育成を図ります。人材育成に向けては、職員が主体的に自らの実践力向上に取り組めるよう、成長段階ごとの到着目標を設け、継続的に教育・研修を実施します。

5 健全で安定した経営基盤の確立

市民・利用者の期待や信頼に応える施設として、効率的・効果的な運営に努め、健全で安定的な経営基盤を確立します。そのため、経営目標を組織で共有し、施設稼働率の向上やコスト節減などの実現を図ります。共通の目標に向かって取り組む過程を通して、職員が一体となってセンター運営に取り組む意欲を高めます。

(1) 介護老人保健施設(しらさぎ苑)

【一般棟50床 認知症専門棟30床 通所リハビリテーション(含介護予防) 定員20人】
 介護保険制度に基づき、要介護認定された高齢者の方々に「施設サービス」・「短期入所」・「デイケア」の介護サービスを提供しています。ニーズの高い短期入所の割合が高いことが特色です。
 なお、一般棟及び認知症専門棟を合わせた入所稼働率は、96.4%を達成しました。

利用者数及び男女別内訳 (人)

区 分			延利用者数	実 利 用 者 数		
				男 性	女 性	合 計
入 所	一 般 棟	施設サービス	15,500	10	81	91
		短期入所	1,784	38	123	161
	認 知 症 棟	施設サービス	9,711	9	52	61
		短期入所	1,163	57	63	120
施設サービス計(再掲)			25,211	19	133	152
短期入所計(再掲)			2,947	95	186	281
入 所 計			28,158	114	319	433
通 所			4,831	38	36	74
合 計			32,989	152	355	507

* 入所における延利用者数の短期入所の割合は10.5%となっています。

ア 入 所

(ア) 入所者の年齢別内訳 (人)

	~ 64歳	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	合 計
一 般 棟	8	18	24	26	50	60	47	19	252
認 知 症 棟	1	13	13	20	32	60	38	4	181
合 計	9	31	37	46	82	120	85	23	433

(イ) 入所者の平均入所日数 (日)

区 分		日 数
一 般 棟	施設サービス	407.6
	短期入所	11.3
認 知 症 棟	施設サービス	299.2
	短期入所	9.9

(ウ) 入所者の区別内訳 (人)

	鶴 見	神奈川	西	中	南	港 南	保土ヶ谷	旭	磯 子
一 般 棟	47	76	2	2	4	1	4	1	0
認 知 症 棟	40	63	1	2	1	0	9	0	0
合 計	87	139	3	4	5	1	13	1	0

金 沢	港 北	緑	青 葉	都 筑	戸 塚	栄	泉	瀬 谷	市 外	合 計
0	86	12	1	2	1	0	3	1	9	252
1	45	0	0	12	0	1	0	0	6	181
1	131	12	1	14	1	1	3	1	15	433

(エ) 入所者の要介護度別内訳 (人)

	施設サービス	短期入所	合計
要支援1・2	-	0	0
要介護1	2	11	13
要介護2	34	41	75
要介護3	42	86	128
要介護4	35	73	108
要介護5	39	70	109
合計	152	281	433
平均介護度	3.49		

(オ) 医療処置の必要な入所者数(月平均) (人)

	一般棟	認知症棟
服薬介助	46.7	27.8
褥瘡処置	0.12	0.37
尿管留置カテーテル	1.47	0.99
ストマ	0.8	0.24
経鼻栄養	1.1	0
胃・腸瘻	9.79	0
インスリン注射	2.54	1.36
点滴	0	0
酸素吸入	0	0
医療処置(服薬除く)の必要な人の割合	34%	10%

(カ) 感染症の方の受入 (重複あり)

(人)

感染症名	人 数
M R S A	1
緑膿菌	0
H B V	7
H C V	7
梅 毒	0
合 計	15

(キ) 施設サービス退所者の状況

	退所後の行き先内訳				
	自 宅	老健施設	病 院	特 養	合 計
人 数	20 人	10 人	42 人	10 人	82 人
退所先の割合	24.4%	12.2%	51.2%	12.2%	100%

イ 通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション

(ア) 年齢別内訳

(人)

年 齢	~64 歳	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	合 計
利用者数	1	6	11	15	12	13	15	1	74

(イ) 区別内訳

(人)

	港 北	神奈川	保土ヶ谷	市外	合 計
利用者数	59	13	1	1	74

(2) 診療所病床 【医療病床 7床 介護療養病床 12床】

医療法の病床のうち、7床で医療対応が必要な高齢者等のショートステイを中心に対応するとともに、12床で要介護高齢者の受け入れを行い、介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ中重度者に対応しました。介護老人保健施設と連携してサービスの質向上に取り組むとともに、入所稼働率は96.4%を達成しました。

ア 医療病床（7床） 延2,601人

介護保険の適用とならない、在宅の寝たきりの方や医療対応が必要な寝たきり高齢者等の方のショートステイを中心に入所を行いました。

(ア) 男女別・年齢別内訳 (人)

	~39歳	40~49	50~59	60~64	65~69	70~79	80~89	90~	合計
男性	0	5	1	1	8	30	16	11	72
女性	0	0	0	1	9	56	42	13	121
合計	0	5	1	2	17	86	58	24	193

(イ) 男女別・利用期間別内訳 (人)

	1~5日	6~10日	11~15日	16~30日	31日~	合計
男性	15	19	26	5	7	72
女性	14	61	18	19	9	121
合計	29	80	44	24	16	193

(ウ) 区別内訳 (人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
36	15	25	7	1	0	11	0	0	17
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
37	9	1	10	2	9	0	1	12	193

(エ) 主な疾患別内訳 (重複あり) (人)

脳血管疾患	神経疾患	精神疾患	呼吸器疾患
99	68	2	6
筋・骨格疾患	心疾患	糖尿病	その他
16	10	11	15

イ 介護療養病床（12床） 延4,081人

要支援、要介護認定を受けた方を対象にした療養上の管理・看護・介護等を行いました。また、在宅医療機器（在宅酸素療法など）利用の方の受入を実施しました。

(ア) 男女別・年齢別内訳 (人)

	40～49歳	50～59	60～64	65～69	70～79	80～89	90～	合計
男性	0	0	0	1	1	7	0	9
女性	0	0	0	0	12	4	8	24
合計	0	0	0	1	13	11	8	33

(イ) 男女別・利用期間別内訳 (人)

	1～5日	6～10日	11～14日	15～30日	31日～	合計
男性	0	0	0	1	8	9
女性	1	0	0	0	23	24
合計	1	0	0	1	31	33

(ウ) 区別内訳 (人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
13	6	2	2	3	0	2	0	0	0
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
4	0	0	0	0	0	0	0	1	33

(エ) 要介護度別内訳 (人)

	施設サービス	短期入所	合計
要支援1・2	-	0	0
要介護1	0	0	0
要介護2	0	0	0
要介護3	0	0	0
要介護4	1	0	1
要介護5	32	0	32
合計	33	0	33
平均介護度	4.97		

(オ) 主な疾患別内訳 (重複あり)

(人)

脳血管疾患	神経疾患	精神疾患	呼吸器疾患
10	6	1	3
糖尿病	筋・骨格疾患	心疾患	その他
2	1	3	5

ウ 感染症の方の受入 (重複あり)

(人)

感染症名	人数
MRSA	6
緑膿菌	3
HBV	0
HCV	1
梅毒	0
計	10

(3) サービスの実施内容

ア 個別サービスの提供

サービス計画(ケアプラン)に基づく個別の看護、介護、リハビリテーションなどのケアがサービスの基本となります。平成24年度もプランの充実に取り組み、利用者個々の能力に応じ、自立した生活を営むことが出来るように支援しました。

イ 行事・レクリエーション等の実施

個別のケアサービスの他、余暇時間の充実のために施設全体が関わる年間行事や季節を楽しむやさやかな行事など、月に1回は楽しみな日を設けました。また、日々には種々のレクリエーションやコーラス・脳トレなどのクラブ活動を実施しました。

平成24年度に実施した行事等

	大きなイベント	季節行事等のイベント	食 事
4月		お花見散歩会 お楽しみ風呂「桜湯」	花まつり弁当
5月	おやつバイキング 「新茶を楽しむ」	端午の節句飾り 散歩会 菖蒲湯 趣味の会	端午の節句 行事食
6月		梅酒づくり ガーデニング	郷土食巡りの旅 「岡山 まつり寿司」

7月	夏祭り	七夕まつり お楽しみ風呂「レモンライム湯」 ガーデニング 歌と踊りの会	七夕そうめん 土用の丑の日 行事食 選択食の日
8月		すいか割り ガーデニング	郷土食巡りの旅 「宮崎 冷や汁うどん」
9月	演芸会 (敬老の日記念)	ガーデニング お楽しみ風呂「紅葉の湯」 大正琴演奏	選択食の日 敬老の日 行事食 天ぶら盛り合わせ
10月	センター文化祭	散歩会(区民まつり) ハロウィン 歌と踊りの会 ガーデニング	郷土食巡りの旅 「岐阜 ぶりの塩焼き」 体育の日行事食
11月	お寿司バイキング	お楽しみ風呂「ローズ湯」 ガーデニング 民謡の会	
12月		柚子湯 ガーデニング クリスマス会 年忘れのつどい アンサンブル「夕なぎ」会	郷土食巡りの旅 「群馬 花豆ご飯」 Xmasケーキ Xmas行事食 年越しそば
1月		書き初め 獅子舞(2回) 民謡の会 お楽しみ風呂「ラベンダー湯」	おせち料理 七草 選択食の日
2月	中華バイキング	節分の会 民謡の会	節分の日行事食
3月		ひな祭りの会 歌と踊りの会 お楽しみ風呂「あまおういちづ湯」	ひな祭り 行事食 選択食の日

* コールスクラブを毎月2回、民謡の会を毎月実施。

ウ 家族との交流会の実施

(ア) 介護教室

認知症専門棟利用者の家族を対象に「認知症についての理解 認知症のウソ？ホント？」のテーマで、24年10月に介護教室を実施しました。4名の方及び学生1名が参加し、職員と家族が共に学び意見交換をしました。

(イ) 通所リハビリテーション家族会

通所リハビリテーションでは、毎年家族会を実施していますが、平成24年度も25年2月に6名の方の参加で行いました。内容は、「通所リハビリテーションの説明」『洗い残しを目で確かめる「手洗いチェッカー」体験』『意見交換会』で、職員と家族との交流の場となりました。

3 地域医療機関支援事業

要介護者、精神障害者の在宅支援のうえで、かかりつけ医等の地域医療機関の果たす役割は大変重要です。大病院指向から、病診連携による機能分担への流れを踏まえ、センターではこれまで地域医療機関に対し、高額医療機器の共同利用等による支援を行ってまいりました。

今年度も地域医療機関のニーズを踏まえ、適切な支援事業を推進いたしました。

(1) 高額医療検査機器の共同利用

地域医療機関にはスペースや採算性により設置困難なMRI（磁気共鳴イメージング装置）やCT（コンピュータ断層撮影装置）等の画像診断機器や、トレッドミルや心臓超音波装置、内視鏡装置を整備し、地域医療機関の依頼に応じて、検査、診断を実施いたしました。

ア 医療検査機器の共同利用

市内の医療機関を対象に、MRI、CT、RI等の医療検査機器の共同利用を行いました。

検査項目		共同利用 (人)	所内検査 (人)	合計 (人)
放射線検査	C T	1,038	276	1,314
	M R I	1,317	1,145	2,462
	R I	70	160	230
	X線撮影	15	1,414	1,429
	小計	2,440	2,995	5,435
生理検査	内視鏡	65	22	87
	腹部超音波	-	32	32
	頸動脈超音波	-	71	71
	心臓超音波	117	66	183
	脳波	141	900	1,041
	運動負荷心電図	25	27	52
	ホルター心電図	-	33	33
	小計	348	1,151	1,499
合計		2,788	4,146	6,934

(2) 認知症診断及び外来

認知症の診断・外来治療については、市民の関心の高まりにより受診希望者が年々増加しています。それに対応するため、過去約3年以内に当センター認知症診断外来を受診した方からの再診断予約については、『認知症診断再初診枠』を設けることにより、新規の方の認知症外来の待機期間の緩和を図りました。今後も新患の増加に伴う再来患者の増加への対応も含め、認知症に関する当センターの評価を確たるものにするよう取り組んでまいります。

ア 認知症診断

認知症が疑われる方を対象に精神科医による診察やMRI、脳波等の精密検査による認知症の診断を行い、医学的な面から在宅生活を支援しました。

(ア) 男女別・年齢別内訳 (人)

	~59歳	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	合計
男性	6	12	21	44	77	83	59	15	317
女性	11	14	19	65	146	167	84	22	528
合計	17	26	40	109	223	250	143	37	845

(イ) 疾患別内訳 (人)

疾患名	アルツハイマー病 (晩発性)	混合型 認知症	アルツハイマー病 (早発性)	脳血管性 認知症	その他	認知症なし	合計
人数	448	71	26	21	250	29	845

アルツハイマー病(晩発性)は65歳以上、(早発性)は65歳未満で発症したものの。

(ウ) 区別内訳 (人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
45	112	10	13	16	40	33	23	14	5
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
265	89	16	35	18	10	33	3	65	845

(エ) 紹介機関等の内訳 (人)

紹介機関	医療機関	福祉保健 センター	地域ケア 施設	直接申込		合計
				本人	家族	
人数	4	12	24	18	787	845

(オ) 認知症診断再初診 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	7	7	7	7	13	9	11	12	5	9	8	8	103

イ 認知症外来

認知症診断を受診後、引き続き外来診療を希望する方を対象に、認知症外来を実施しました。

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	334	313	314	330	291	289	308	327	292	287	271	304	3,660

(3) 生活習慣病外来等

横浜市では、健康寿命の延伸をテーマに「健康横浜21」運動を展開し、死因の6割を占める、がん・脳血管疾患・心疾患の三大生活習慣病対策等に取り組んでいます。

また、最近では、内臓脂肪型肥満に加えて血糖値、血圧、血清脂質のうち2つ以上が危険域にあるメタボリックシンドロームも、動脈硬化を年齢相応より早く進行させるものとして問題となっています。喫煙に伴う「肺の生活習慣病」である慢性呼吸器病疾患（COPD）ともあわせ21世紀の生活習慣病の概念は非常に広義になっています。当センターにおいても高齢者を側面から支援するため、啓発活動とともに原因治療に重点をおいた生活習慣病外来を実施しております。

また、平成20年4月から糖尿病等の生活習慣病の予防及び進行の防止、生涯にわたる健康の保持を図ることを目的に、高齢者の医療の確保に関する法律が施行され、当センターにおいても特定健康診査及び主に75歳以上の横浜市民を対象とした横浜市健康診査を実施しました。

ア 生活習慣病外来 月別利用人数

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	356	366	360	370	331	330	411	384	373	357	327	381	4,346

イ 健康診査他

(人)

健康診査		年間受診者数
特定健康診査		115
横浜市国民健康保険		101
社会保険他		14
横浜市健康診査他		19
横浜市健康診査		14
P S A検査		5
生活機能評価		0

ウ 歯科診療

当センター老健入所者等を中心に、歯科診療を実施しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	20	34	24	13	17	18	26	29	25	46	45	39	336

エ 精神科初期救急

神奈川県精神保健福祉センター内に設置されている、精神科救急医療情報窓口にて電話相談し、窓口で外来受診が必要と判断された方に土曜日の午後(13:00～17:00)、日曜・祝日・年末年始の午前午後(9:00～17:00)に診療を行いました。

(ア) 開所日数

開所日数	120日
------	------

(イ) 受入人数

受入人数	91人	1日平均	0.8人
------	-----	------	------

(ロ) 曜日別内訳 (人)

土曜	日曜	祝日	合計
14	37	40	91

(ハ) 診察内容内訳 (重複あり) (人)

診察	処方	注射	紹介状	入院
91	79	3	18	2

(ニ) 男女別・年齢別内訳 (人)

	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～(歳)	計
男	0	10	12	6	8	2	1	39
女	4	9	12	10	8	5	4	52
計	4	19	24	16	16	7	5	91

(ホ) 病名内訳 (重複あり) (人)

うつ病	統合失調症	抑うつ状態	不眠症	神経症	不安性障害
26	18	13	13	12	6
双極性感情障害	パニック障害	てんかん	パーキンソン症候群	その他	
4	3	2	2	15	

(ヘ) 区別内訳 (人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
7	4	1	4	9	5	4	5	3	4
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
4	4	2	1	5	0	2	2	25	91

(市外内訳 川崎市8人、相模原市4人、その他の県内9人、県外4人)

4 総合相談事業

総合相談室は、精神障害者支援・要介護高齢者支援・地域医療機関支援を行う、横浜市総合保健医療センターの窓口として利用者のニーズを幅広く捉え、要援助者の在宅生活を支援しております。さらに、総合相談室を核として、各部門の有機的な連携を図ることにより専門的・総合的支援を行っております。平成24年度も、総合相談室に、保健師・社会福祉職など専門職を配置し、利用者や家族からの幅広い相談に応じ、適切なアドバイスを実施しました。

(1) 相談・情報提供

支援を要する高齢者や精神障害者等の方々の、保健・福祉・医療に関する相談に対応し適切な情報を提供することにより、住み慣れた地域で安心した生活が送られるよう支援しました。

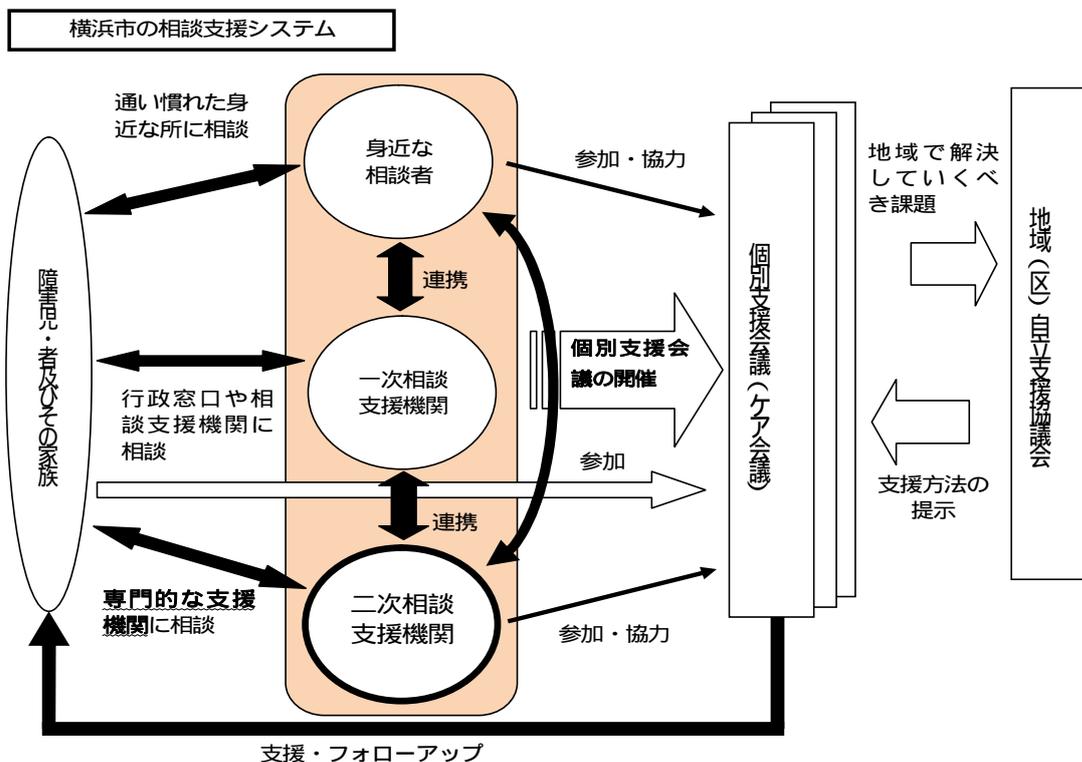
(件)

電話相談	窓口相談	合計
8,967	1,723	10,690

(2) 障害者二次相談支援事業

横浜市障害者相談支援事業要綱によって規定されている事業であり、平成15年度から実施されていますが、当センターでは平成19年10月より自立支援法の相談支援事業者になると共に、横浜市障害者相談支援システムの二次相談支援機関として位置付けられました。

平成20年度からは総合相談室に職員を配置し、障害者やその家族、一次相談支援機関からの相談に対し支援を行うとともに、港北区自立支援協議会、二次相談支援機関連絡会等に出席し、地域の相談支援事業を行いました。



二次相談事業実績

(件)

	電話	面接	訪問	会議出席	その他	合計
件数	336	78	39	63	257	773

(3) 入所判定会議(施設サービス受入会議)

平成12年4月より介護保険法が施行され、長期入所(施設サービス)者の受入を開始しました。受入の可否について、医師、看護師、ケアワーカー、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、相談員(保健師、ソーシャルワーカー)等による会議を開き検討しました。

入所判定会議開催状況

		開催回数 (回)	利用希望者 (人)	受入結果		否の主な理由
				可(人)	否(人)	
介護老人	一般棟	18	28	27	1	病状不安定
保健施設	認知症棟	16	19	18	1	
診療所	療養病床	3	3	3	0	
合計		37	50	48	2	

(4) 評価会議

介護老人保健施設及び診療所入所者の情報を多職種で共有し、よりよいケアが出来るように評価会議を週1回開催しました。

参加スタッフは、医師、看護師、ケアワーカー、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、臨床心理士、相談員(保健師、ソーシャルワーカー)等で構成しています。

評価会議開催状況

		開催回数 (回)	入所予定者 (初期) (人)	入所者 (中期) (人)	退所者 (退所時) (人)	合計 (人)
介護老人	一般棟	44	157	193	193	543
保健施設	認知症棟	36	108	152	152	412
診療所	在宅医療	45	177	185	188	550
	療養病床	27	2	22	21	45
合計		152	444	552	554	1,550

(5) 支援会議

精神障害者支援施設入通所者の支援目標及びご本人ご家族の希望などの情報を共有し、支援計画を作成するため支援会議を週2回～3回開催しました。

参加スタッフは、医師、ソーシャルワーカー、地域支援者（区福祉保健センター職員、病院のソーシャルワーカー）等で構成され、随時ご利用者本人及びそのご家族も参加して行いました。

		開催回数 (回)	入所予定者 (初期) (人)	入所者 (中期) (人)	退所者 (退所時) (人)	合計 (人)
精神障害者	生活訓練	62	24	39	8	71
支援施設	就労訓練	64	29	59	13	101
合計		126	53	98	21	172

(6) ケアカンファレンス(ケアプラン会議)

施設利用者に対するサービス計画書を作成するために、ケアカンファレンス(ケアプラン会議)を週1回開催しました。参加スタッフは、医師、ケアマネジャー、看護師、ケアワーカー、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、相談員(保健師、ソーシャルワーカー)等で、ケアプランの検討・修正・再評価・退所評価を行いました。

ケアカンファレンス開催状況

		開催回数 (回)	初期ケアプラン 件数 (件)	継続ケアプラン 件数 (件)	退所時ケアプラン 件数 (件)
介護老人	一般棟	45	40	145	29
保健施設	認知症棟	38	29	78	29
診療所	療養病床	31	8	42	4
合計		114	77	265	62

5 総合保健医療センターにおける財団自主事業

指定管理者として自主的な企画・運営による自主事業を展開しています。これは当財団の「定款」や「基本理念」に沿った公益的的使命に基づいた事業内容となっています。

(1) 訪問看護ステーションみんなのつばさ

精神障害者の在宅医療支援、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ中重度高齢者に対する在宅支援により、センター機能の一層の充実を図ることを目指して、平成19年1月から訪問看護ステーション事業をスタートし、利用者数も年々増加しています。

訪問看護ステーションの利用者に統合失調症等の精神障害者が一定数含まれることは統計的に知られていましたが、訪問看護を開始してみて、医療から生活支援まで多機能の専門性を有する当センターであるからこそ、より質の高い支援ができることを実感しています。利用者一人に要する時間が長くなるなど効率性の面での課題もありますが、平成24年度も公益性と効率性の均衡を考えながら、センターの理念に沿った特徴ある運営に努め、利用者の在宅生活を支援してまいりました。

利用者数、延訪問件数、新規利用者数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	98	98	98	97	98	99	101	99	99	97	98	98	1,180
延べ訪問件数	335	345	345	346	364	330	375	361	315	316	319	321	4,072
新規利用者	2	3	3	1	2	4	1	2	0	3	2	0	23

(2) シニアフィットネス事業

運動指導事業

高齢者や生活習慣病などの有症患者に対し、診療所機能と密接な連携を図りながら、医療及び運動生理学の両面から運動処方を作成を行うとともに、身体機能の向上や寝たきり防止のための運動プログラムの提供及び実技指導を行いました。

- ・対象者 身体を動かすことによる健康づくり、介護予防に関心がある方で、主にシニア年齢の方が利用しています。
- ・内容 1回90分の教室を1日3回実施しています。教室の内容は、トレーニング機器を利用した有酸素運動や運動指導員による筋力アップ、ストレッチ体操などの集団体操を行っています。
- ・定員 1回15人
- ・料金 1時間帯 600円

月別延利用人数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
270	277	299	274	268	249	287	286	237	228	243	219	3,137

(3) 講演、講座等の市民サービス事業

ア 認知症支援講座

(ア) 認知症を理解するための家族教室

認知症の方を介護する家族に対し、認知症の理解と知識を深め、介護負担の軽減を図るための教室を開催しました。

- ・ 対象者 当センター診療所認知症診断外来受診者の家族
- ・ 内容 1コース3回(1回120分)とし、講義と懇談会を行いました。
- ・ 料金 1コース、一人3,000円
- ・ 実施回数 2回(延6回)
- ・ 参加者数 54人(延)

(イ) 認知症介護者カウンセリング

- ・ 料金 1回 3,000円(50分)
- ・ 利用者数 7人

(ウ) 認知症専門医派遣事業

各区役所から認知症の理解と知識を深めるための講演会等の依頼に対し、当センターの専門性を活かし、センターの認知症専門医を派遣し、認知症に関する知識の普及啓発を図るとともに、当センターの事業のPRを実施しました。

- ・ 対象者 認知症に関心のある市民
- ・ 内容 認知症専門医による、疾病に関する正しい知識の普及
- ・ 派遣回数 1回

イ 家族SSTセミナー

統合失調症の方がいる御家族を対象に、統合失調症に関する知識と理解を深めると共に、当事者の回復が進んでいくコミュニケーションスキルを身に付けていただくことを目的に、家族SSTセミナーを実施しました。

対象者	横浜市内に在住で、統合失調症の方がいる家族
内容	1クール5回で、1回120~150分間とし、講義とコミュニケーションスキルの演習を行いました。
料金	1クール6,500円
実施回数	前期コースのセッション5回、後期コースのセッション5回の計10回
参加人数	延べ90人(前期54人・後期36人)

ウ 健康づくり講座

健康づくりや疾病の改善に関する情報が氾濫している中、専門医による健康講座を開催し、正確で正しい情報を市民に提供しました。

また、同じテーマで、平日及び土曜日に開催し、さまざまな方が参加しやすいように配慮しました。さらに、当センターの事業を紹介し必要に応じ個別相談を行いました。

- ・定員 各回100人
- ・開催回数 5回
- ・料金 500円(1人)

(人)

開催年月日	内 容	参加人数
平成24年5月24、26日	テーマ 健診で高血圧と言われたら 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	38
		22
平成24年6月28日	テーマ がん全般についての話し 講師 診療部長 久邇 之房	21
平成24年10月4、6日	テーマ LDL コレステロールについて 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	76
		41
平成24年11月29日 12月1日	テーマ メタボ症候群・内臓脂肪・過体重 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	25
		23
平成25年3月28、30日	テーマ 検診で血糖値やHbA1cが高いと言われたら 講師 診療部担当部長 本郷 洋一郎	27
		16
合 計		289

(4) 研修事業

ア 臨床研修医の受け入れ

質の高い医療を継続するには、研修医の質の高い教育が必須です。

当センターでは「地域医療」の研修機関として、平成24年度は横浜南部病院から1人、横浜市立大学附属市民総合医療センターから1人、横浜労災病院から4人を受け入れました。今後も教育プログラムの工夫を行い、受け入れを実施します。

- ・ 内 容 総合保健医療センターの診療所、精神障害者支援施設、介護老人保健施設での臨床研修を実施しました。
- ・ 対象者 医療機関で臨床研修を受講している医師。

イ 症例研修会

主に近隣区の医師を対象に画像撮影や症例検討などを通じて、各種検査機器の共同利用を推進するとともに地域医療機関に対し高度医療の鑽を回すことを目的に研修会を開催しました。

開催日時	平成25年2月28日(木)19時~
演 題	「プライマリケアにおける認知症診断について」
講 師	地域精神保健部長 塩崎 一昌 診療部担当部長 永瀬 みゆき
参加者数	6人

ウ ケアマネジャー研修

市内の居宅介護支援事業者のケアマネジャーを対象に研修会を開催し、センターとケアマネジャーの連携を強化し、センター事業をPRしました。

開催日時	第1回 平成24年9月15日(土)14:30~
演 題	「老年期の精神疾患について」
講 師	診療部 須田 彩子(精神科医師)
参加者数	46人

開催日時	第2回 平成25年2月23日(土)13:30~
演 題	「地域で暮らす精神障害の方への支援について」
講 師	看護部担当科長 篠崎 めぐみ(看護師)
参加者数	28人

ウ 研修生の受け入れ

横浜市総合保健医療センターや生活支援センターが持つ機能や実績を活用し、各部門において専門職種の人材育成を目的として、研修生の受け入れを実施しました。

医学部、看護大学、看護専門学校、社会福祉系大学、医療技術系大学、学生や施設職員等を対象にしました。(受入一覧表次頁)

6 ボランティア受入

横浜市総合保健医療センターでは、多くのボランティアの方に協力していただき、平成24年度は延687人の方々に各部門(主に介護老人保健施設「しらさぎ苑」)でご利用者のレクリエーション、話し相手、食事などの活動をしていただきました。

また、ボランティアの方とセンター職員との間で、連絡会を開催し、様々なご意見をいただき、施設運営に反映しています。

研修生受入一覧

受け入れ部門	実習期間		実習生依頼主	延	実習生職種等
	自	至			
介護老人保健施設	H24.6.6	H24.6.8	全国老人保健施設協会	12	介護職
介護老人保健施設	H24.11.7	H24.11.9	全国老人保健施設協会	3	介護職
介護老人保健施設	H24.10.22	H24.10.30	神奈川県立よこはま看護専門学校	42	専門学校生
介護老人保健施設	H24.8.6	H24.8.17	横浜市立大学	50	大学生
介護老人保健施設	H24.9.10	H24.10.12	日本看護協会	44	看護師
介護老人保健施設	H25.2.14	H25.2.27	横浜労災看護専門学校	40	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24.6.4	H24.6.9	アルファ福祉専門学校	12	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24.6.11	H24.6.11	紫雲会ゆかり荘	1	大学生
神奈川区生活支援センター	H24.6.15	H24.6.15	紫雲会横浜病院	1	大学生
神奈川区生活支援センター	H24.6.20	H24.6.20	紫雲会ゆかり荘	1	大学生
神奈川区生活支援センター	H24.7.4	H24.7.19	YMCA 福祉専門学校	16	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24.7.28	H24.8.4	アルファ福祉専門学校	8	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24.8.7	H24.8.19	アルファ福祉専門学校	13	専門学校生
神奈川区生活支援センター	H24.12.7	H24.12.7	市立大学医学部看護学科	2	看護学生
神奈川区生活支援センター	H25.1.21	H25.1.22	市病院看護専門学校	16	看護学生
神奈川区生活支援センター	H24.11.6	H24.11.7	横浜労災看護専門学校	69	看護学生
磯子区生活支援センター	H24.10.22	H24.11.9	東京福祉専門学校	15	専門学校生
磯子区生活支援センター	H24.9.3	H24.10.6	目白大学	24	大学生
磯子区生活支援センター	H24.12.7	H24.12.7	横浜市大看護学部看護学科	3	大学生
磯子区生活支援センター	H24.1.21	H24.2.5	横浜市病院協会看護専門学校	20	専門学校生
磯子区生活支援センター	H24.6.28	H24.6.30	神奈川県社会福祉協議会	3	社会人
磯子区生活支援センター	H25.1.19	H25.1.20	神奈川県社会福祉協議会	2	社会人
磯子区生活支援センター	H25.2.16	H25.2.17	神奈川県社会福祉協議会	2	社会人
港北区生活支援センター	H24.6.4	H24.7.18	東京福祉大学	24	大学生
港北区生活支援センター	H24.9.18	H24.10.23	目白大学	24	大学生
港北区生活支援センター	H24.11.1	H24.11.18	東京福祉大学	12	大学生
港北区生活支援センター	H24.12.7	H24.12.7	横浜市大医学部看護学科	3	大学生
港北区生活支援センター	H25.1.21	H25.2.5	横浜市病院協会看護専門学校	9	専門学校生
精神科デイケア	H24.6.11	H24.6.27	上智福祉専門学校	12	専門学校生
精神科デイケア	H24.8.20	H24.9.5	神奈川県立保健福祉大学	12	大学生
精神科デイケア	H24.8.27	H24.10.19	昭和大学	38	大学生
精神科デイケア	H24.12.7	H24.12.7	横浜市立大学	2	大学生
精神科デイケア	H24.10.15	H24.10.15	(医)明芳会 江田記念病院	1	看護師

受け入れ部門	実習期間		実習生依頼主	延	実習生職種等
	自	至			
精神科デイケア	H25.1.15	H25.2.1	神奈川県立保健福祉大学	14	大学生
精神科デイケア	H24.5.31	H24.5.31	医療法人赤城会 三枚橋病院	1	作業療法士
精神科デイケア	H24.8.27	H24.8.27	(医)朋友会けやきの森病院	1	作業療法士
精神科デイケア	H24.10.19	H24.10.19	立教大学	1	大学生
精神科デイケア	H25.1.31	H25.1.31	ハートフル川崎病院	1	作業療法士
精神科デイケア	H25.1.31	H25.1.31	ハートフル川崎病院	1	PSW
生活訓練	H24.6.4	H24.6.25	明治学院大学	14	学生
生活訓練	H24.6.6	H24.6.6	アルファ医療福祉専門学校	2	学生
生活訓練	H24.6.13	H24.6.20	東京福祉大学	2	学生
生活訓練	H24.8.14	H24.9.5	川崎聖風福祉会	10	職員
生活訓練	H24.10.1	H24.10.12	日本社会事業大学	8	学生
生活訓練	H25.2.12	H25.2.27	川崎聖風福祉会	6	職員
生活訓練	H25.2.18	H25.3.12	桜美林大学	12	学生
就労訓練	H24.8.20	H24.9.5	神奈川県立保健福祉大学	12	大学生
就労訓練	H25.2.28	H25.3.15	桜美林大学	12	大学生
就労支援センター	H24.4.9	H24.6.1	神奈川県立保健福祉大学	37	大学生
就労支援センター	H24.6.11	H24.8.4	帝京平成大学	48	大学生
就労支援センター	H24.8.6	H24.8.10	北里大学	10	大学生
就労支援センター	H24.8.24	H24.8.24	北里大学医療衛生学部	4	大学生
就労支援センター	H25.1.15	H25.2.1	神奈川県立保健福祉大学	14	大学生
合 計			53 件	746	

精神障害者生活支援センター管理運営事業

生活支援センターは、地域で生活する精神障害者の日常生活の支援、相談、地域交流活動の促進等を行うため設置され、精神障害者一人ひとりが、地域の中で安心して自分らしい生活を送れるように様々な支援をします。

総合保健医療財団では、神奈川区生活支援センター、磯子区生活支援センター、港北区生活支援センターの指定管理者となり、市内3か所(3区)の生活支援センターを運営しています。

1 横浜市神奈川区精神障害者生活支援センター

神奈川区生活支援センターは、運営を横浜市から受託し、平成11年5月から業務を開始しました。日常生活相談や食事、入浴サービス等の生活支援のほか、仲間づくりとしてイベント等を行い、地域の各機関と連携を取りながら、自立に向けての援助を実施しました。また、来館を待つだけのスタンスではなく、訪問・同行（アウトリーチ型支援）に重視を置いて支援を行っています。

平成18年10月から長期入院者の退院促進支援事業に取り組み、平成23年度から自立生活者支援の自立生活アシスタント事業も実施しています。地域精神保健福祉の中核施設として、ケアマネジメント手法に基づく相談支援を展開しています。

(1) 開設場所 横浜市神奈川区反町1 8 4 「はーと友神奈川」4階

(2) 利用時間 午前9時から午後9時まで

毎月第一月曜日休館（第一月曜日が祝日と重なる場合は、翌日休館）

(3) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行
31,255	11,304	2,948	112	340	16,266	285

開所日数
353

イ 相談支援

(人)

合計	電話(再掲)		面接		訪問・同行(再掲)		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
19,334	8,155	8,111	692	470	161	124	1,059	562
1日平均	46.1		3.3		0.8		4.6	

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
26回	33人	18	14	1

ウ 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			インターネットサービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
7,417	5,240	2,177	3,697	3,409	288	500	348	152
1日平均	21.0		1日平均	10.5		1日平均	1.4	

(4) 利用登録内訳

利用登録の有無にかかわらずセンターは利用できますが、食事、入浴サービスを利用する場合には登録が必要です。

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~(歳)	不明	合計	最高	最低	平均
男性	0	35	99	182	150	118	0	584	89	20	43.9
女性	2	11	64	96	54	46	1	274	79	18	42.3
合計	2	46	163	278	204	164	1	858	89	18	43.5

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
100	334	16	51	45	15	31	24	16	14
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外他	合計
76	25	6	10	19	6	10	9	51	858

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に、利用者が中心となって企画運営を行うサークル活動があります。また、地域住民を対象としたボランティア講座や、家族を対象とした家族教室等も実施しています。

名称		回数	参加人数
プログラム・行事	利用者ミーティング	12	70
	映画会	12	52
	昼食会	12	78
	季節行事（お正月、ひなまつり、お花見、花火見物）	4	38
	バスハイク	1	24
	カラオケアワー	23	211
	就労相談	3	3
	就労講座・S S T	24	131
	パソコン講座	8	23
	退院促進啓発事業、打合せ	11	178
サークル	スポーツサークル	16	112
	Café de すいーつ	10	54
	カメラの会	16	52
その他	家族講座	1	21
	消防訓練	3	18
	神奈川区生活支援センター運営連絡会	2	47
	夕食サービス向上委員会	12	61
合計		170	1,173

(6) 地域交流

名称	回数	人数
福祉まつり、お祭りを楽しむ会実行委員会	4	11
町内会、盆踊り	1	6
わかば会（家族会）例会	8	16
納涼会、納涼会会議	5	157
クリスマス会、クリスマス会打ち合わせ	3	132
にじの会お茶会	1	25
新春の集い	1	106
喫茶コーナー（せせらぎ）	28	627
合計	51	1080

(7) 地域会議等

名称	回数	人数
通所施設（浦島共同作業所、青桐茶房、青桐ハイツ、せせらぎ、ひふみ、ほのぼの、ペガサス、わかば工芸）運営委員会	15	15
法人（ペガサスの会、ドレミファ会）運営委員会、総会	2	34
にじの会（ボランティア）例会	6	7
神奈川区自立支援協議会	16	18
神奈川区スタッフ連絡会	4	91
退院促進支援部会・ブロック会議	15	15
はーと友事務連絡会	4	4
市精連 横浜精神保健福祉研究所スタッフ会議	4	6
合計	66	190

(8) 地域移行・地域定着支援事業

長期入院者の解消に向け、ケアマネジメントの手法に基づき個別支援を実践するとともに、医療機関などとの地域連携強化を目的に活動しました。平成24年度は、支援対象者9人のうち、4人が退院しました。支援対象者に延べ365回の支援を行いました。

支援対象者数	病名	帰結	退院後の帰来先
9人	・統合失調症 7人 ・その他 2人	・退院 4人 ・支援継続 3人 ・支援中止 2人	・生活訓練施設 3人 ・グループホーム 1人

また、啓発を目的に紫雲会横浜病院にて当事者及び病院関係者を対象として、ピアサポーターやボランティアも参加して、体験発表や資源紹介と交流会を実施しました。

実施場所	実施回数	参加当事者数	参加支援者数
紫雲会横浜病院	9回	118人	79人

(9) 地域支援事業

平成21年度より菅田地域ケアプラザと共同で、生活スキル向上の機会やフリースペース提供、個別の相談の場などを実施しました。

名称	回数	参加人数
生活スキルアップ講座	7	16
健康ストレッチ講座	5	8
フリースペース	6	11
こころの健康個別相談会	4	5
菅田地区公開講座	1	26
他区との地域交流活動勉強会	1	11
合計	24	77

(1 0) リワークフォローアップ事業

平成 22 年 5 月から、総合保健医療センター精神科デイケアの「復職サポートプログラム」の修了者を対象として、生活面のフォローアップを行う事業を毎月 1 回実施しています。

名 称	回数	参加人数	職員
リワークフォローアップ事業	12	55	24

(1 1) ピア活動支援

当事者活動の定着、活性化を目的に、ピアサポーター講座とフォローアップ講座を開催しました。また、月に 1 回のピアミーティングは、メンバー主導で行い、新規来所者に向けて、利用者視点で伝えたいことをまとめた壁新聞の作成などが実現しました。

名 称	回数	参加人数	職員
ピアミーティング	14	97	27
ピアサポーター講座	6	30	24
ピアサポーター フォローアップ講座	1	8	2
合計	21	135	53

(1 2) 発達障害者支援事業

今年度は、発達障害者支援センターと連携の在り方を模索すべく、関係機関と 6 回の話し合いを行いました。

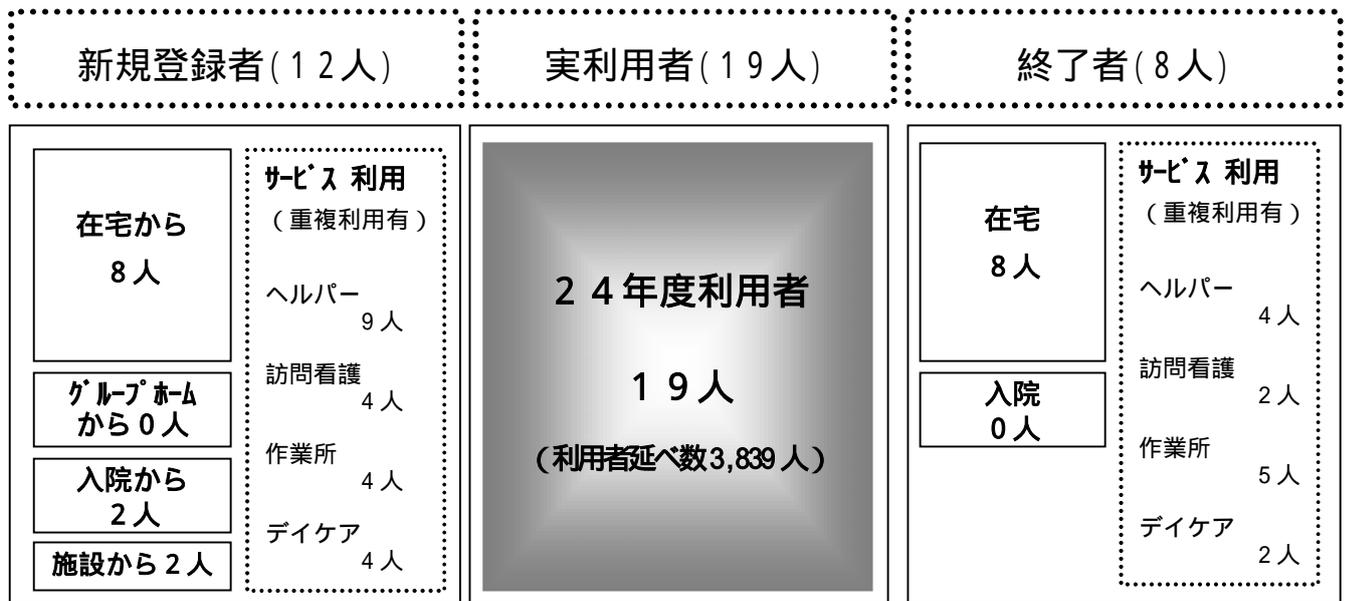
横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ型の支援を行います。訪問や外出同行などを行い、生活場面でのかかわりを重視します。また、地域の資源との連携の中で支援を展開します。事業開始2年目となる今年度は昨年度と比べ相談・利用件数が増加し、実利用者は19人でした。

「一人暮らしを始めるのでサポートを受けたい」「金銭管理がうまくできるようになりたい」などの個別のニーズに対応し、利用者の社会適応力・生活力を高めるオーダーメイドの支援を展開します。

リカバリーの視点を意識し、本人のストレングスを活かした支援、本人にとってより自分らしい地域での生活を目指します。

平成24年度 自立生活アシスタント 利用者の状況



本表は24年度中における登録、利用、終了の状況をそれぞれ示したものである。したがって利用者及び終了者は24年度中の終了者とは限らない。

24年度利用者の状況、支援方法・内容

< 世代別・男女別 >

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	2	4	4	2	13
女性	1	2	1	0	2	6
計	2	4	5	4	4	19

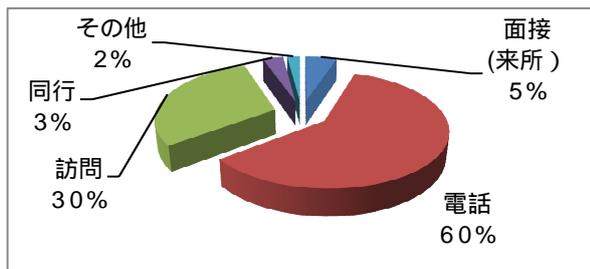
< 利用目的 >

自立生活 (以外)	自立生活 (同居家族の高齢化・死亡)	退所後の生活の安定	退院後の生活の安定	その他	合計
10	2	4	3	0	19

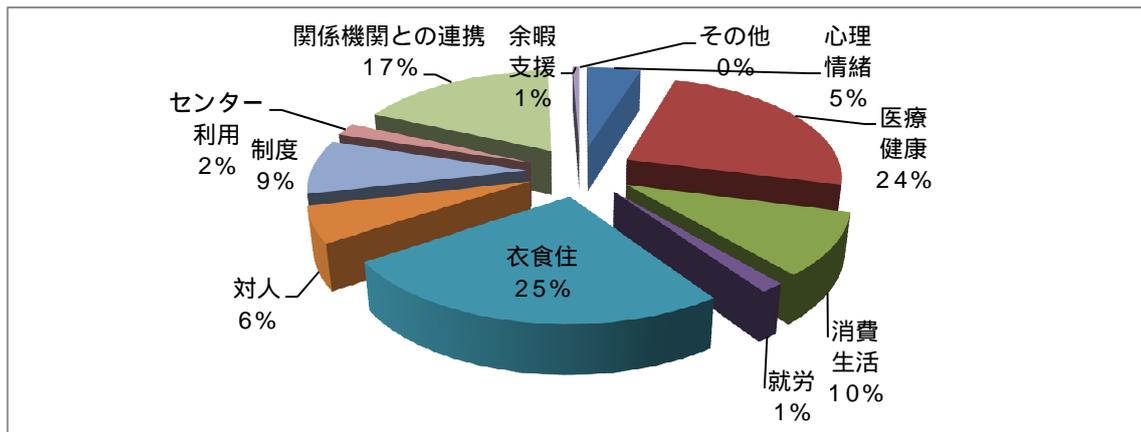
< 世帯状況 >

家族同居	単身	合計
2	17	19

<支援方法>計1,425件



<支援内容>計3,278件



2 横浜市磯子区精神障害者生活支援センター

磯子区生活支援センターは、横浜市から運営を受託し、平成 18 年 11 月から業務を開始しました。同時に指定相談支援事業者の指定を受け、日常生活相談や食事、入浴サービス等を実施したほか、くつろぎの場としての環境整備や出会い・仲間づくりの場としてイベント等を行い、地域の各機関と連携を取りながら、地域で暮らす精神障害者の生活支援、自立に向けての援助を実施しました。

(1) 開設場所 横浜市磯子区森 4-1-17 3 階

(2) 利用時間 午前 9 時から午後 9 時まで

毎月第二火曜日休館（第二火曜日が祝日と重なる場合は、翌日休館）

(3) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行
23,880	6,898	4,394	413	251	11,784	140

開所日数
353

イ 相談支援

(人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
15,171	5,704	6,080	566	443	75	65	1,387	851
1日平均	33.4		2.9		0.4		6.3	

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
48回	44	12	20	12

ウ 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
6,537	4,758	1,779	1,644	864	780	315	179	136
1日平均	18.5		1日平均	4.7		1日平均	0.9	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
698	269	429
1日平均	2.0	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~	合計
男性	2	44	112	221	114	72	565
女性	2	42	120	154	73	63	454
合計	4	86	232	375	187	135	1,019

最高	最低	平均
86	15	45.6
82	19	44.5
86	15	45.1

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
7	16	3	56	93	87	19	13	446	155
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
10	11	4	4	26	18	12	8	31	1,019

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒に作り上げていくプログラムや、利用者が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

(人)

名 称		回数	参加人数
プログラム・行事	統合失調症の「当事者学習会」	4	28
	うつ病の「当事者交流会」	12	53
	利用者ミーティング	12	85
	利用者向け「運営報告会」	2	30
	カフェ	52	618
	昼食会	12	126
	書道教室	12	29
	就労者の会	11	37
	季節行事（初詣、お花見、夏祭り、年賀状づくり等）	2	30
	感謝祭 飾り付け準備	2	6
	6周年記念「感謝祭」(屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	1	400
磯子七福神の学習会	2	10	
サークル	歌声広場	12	55
	アートしま専科	12	59
	女子会	11	44
	かたつむりの会 (当事者ミーティング)	24	108
その他	運営連絡会	2	44
	防災訓練 (屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	2	22
合 計		187	1,784

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体との連携や交流をしています。

(人)

名 称	派遣職員延数
根岸地域ケアプラザでの相談会	6
区主催 精神保健講座の応援	5
ボランティア講座(区社協との共催)	11
区内施設の運営委員会、連絡会	16
講師派遣(地区センター職員研修、ケアマネ研修)	2
その他、地域との交流(賀詞交換会、自治会など)	5
合 計	45

(7) 地域会議等

地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有を行っています。

(人)

名 称	派遣職員延数
磯子区自立支援協議会	6
なぎさ会(家族会)	11
南部地域若者連絡会	4
その他(発達障害連絡会、ボランティア会など)	3
合 計	24

(8) 家族支援及び地域支援事業

統合失調症の方のご家族、うつ状態の方の家族への支援及び地域住民への普及啓発を行っています。
地域住民向けの普及啓発では、地域ケアプラザの協力を得て開催することができました。

(人)

名 称	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」(区役所・家族会との共催)	4	95
うつ病の「家族交流会」	12	79
ボランティア講座(区社協との共催)	3	57
地域ケアプラザとの共催講座(うつ病・統合失調症・強迫性障害・精神障害)	7	87
合 計	26	318

(9) 普及啓発

毎月発行している「センターだより」とは別に、広報紙「うえるかむ」を地元町内会、区内地域ケアプラザ、地区センター等へ配布し、地域住民への普及啓発に取り組んでいます。

(1 0) 地域移行・地域定着支援事業

平成 2 3 年度から新規事業として実施しています。

個別支援

平成 2 4 年度は、7 人に支援を行いました。支援対象者に延べ 5 2 2 回の支援を行いました。

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先
7 人	・統合失調症 5 人 ・その他 2 人	・退院 2 人 ・支援継続 5 人 ・支援終了 0 人	・生活訓練施設 1 人 ・グループホーム 1 人

啓発事業

下記の各病院にて事業説明等の啓発事業を行いました。

対象病院	対象者	内容	実施機関	参加人数
日野病院	職員、家族、当事者	事業説明	磯子区生活支援センター	1 9 人
横浜相原病院	職員	事業説明	地域移行事業南部ブロック (港南区、保土ヶ谷区、栄区、磯子区生活支援センター)	2 回実施 延参加人数 8 6 人
福井記念病院	職員、横浜市に住所がある入院者	社会資源の紹介 事業説明	港北区、栄区、磯子区生活支援センター	2 5 人

生活訓練係、港南区の関係機関と協働し、日野病院で当事者を対象とした啓発活動を行いました。

日野病院	入院者、職員	社会資源の紹介 事業説明	ハイツかもめ、港南区・磯子区生活支援センター、かるがもの家、日野病院	3 6 人
------	--------	-----------------	------------------------------------	-------

日野病院との協働活動

日野病院との協働活動として、退院を目標とした院内プログラムに支援センター職員が参加し、制度や社会資源の紹介等を行いました。

対象者	プログラムの目的	実施回数	平均参加人数
日野病院 長期療養病棟入院者	退院の動機づけを目指す	1 1 回	1 0 人(延参加人数 107 人 うち 1 名退院)

社会資源の紹介、見学、生活スキルの獲得を目指した内容

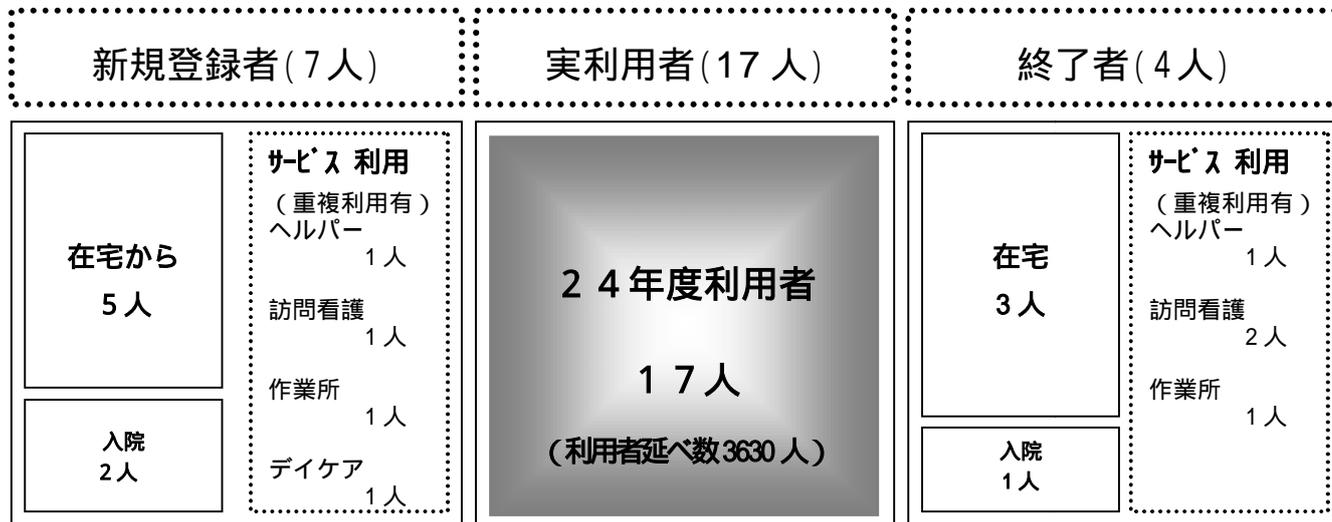
対象者	プログラムの目的	実施回数	平均参加人数
日野病院 入院者	退院を目指す	1 0 回	5 人(延参加人数 4 8 人 うち 2 名退院)

社会資源、制度の紹介、説明

(11) 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ(訪問)によるマンツーマンの生活支援を展開しました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を展開しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「金銭管理の仕方を工夫したい」などの個別のニーズに柔軟に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行いました。本人の強み(長所)を活かし、本人にとってより自分らしい生活を目指しています。

平成24年度 自立生活アシスタント事業 利用者の状況



本表は24年度中における登録、利用、終了の状況を示したものである。したがって利用者及び終了者は24年度中の登録者とは限らない。

24年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	1	1	1	1	5
女性	0	2	6	2	2	12
計	1	3	7	3	3	17

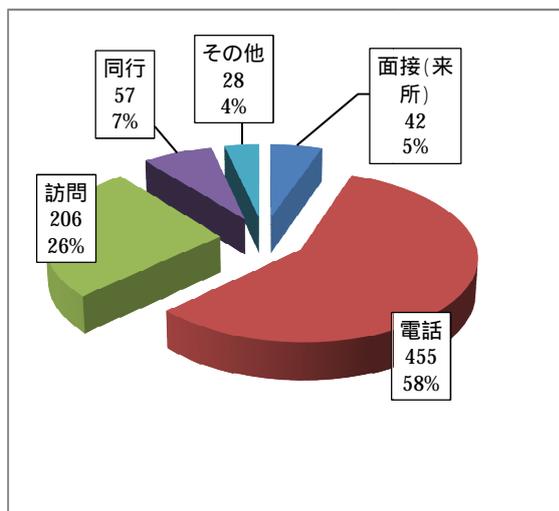
<利用目的>

自立生活(以外)	自立生活(同居家族の高齢化・死亡)	退院後の生活安定	退院後の生活安定	その他	合計
11	0	1	5	0	17

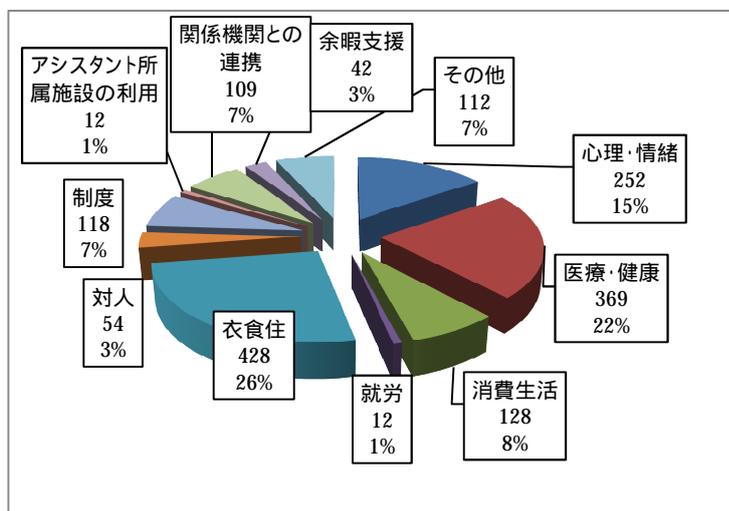
<世帯状況>

家族同居	単身	合計
3	14	17

支援方法(788件)



支援内容(1,636件)



平成24年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成25年6月

公益財団法人横浜市総合保健医療財団